

- 前橋及び高崎の状況を問ふ
- 縣下の温泉を記せ

### ◎ 栃木縣

栃木縣廳 は宇都宮市に在りて、下野全國を管轄す。  
 栃木縣の地勢 北方は足尾、日光、那須の諸山脈相重りて、土地殊に高けれど、南方は關東平原の北部に屬して、土地肥ゆるを以て農産の業盛なり。  
 栃木縣の鐵道 日本鐵道本線は小山より宇都宮に來り、日光線を北に岐ちて、本線は那須ヶ原を過ぎ、福島縣に入る、群馬縣より來るものは、足利、佐野、栃木を経て、小山に至る、佐野より小支線出づ、越名、葛生に至る線路なり。  
 宇都宮市は南部平原の中央に在る都會にして、人口四萬二千を算し、栃木縣廳及び第十四師團司令部、各隊兵營の所在地なり、此地は奥州街道の咽喉に當るを以て、商業亦盛んに市内は繁華を極む

我國第一の  
 産出物  
 テハ第一ト  
 云ハレタ  
 ルハ尾山  
 ハ西北群  
 馬北群  
 國境ニ  
 二變

咽喉ハ  
 下クビト  
 云フコト

宇都宮市  
 ノ西北ニ  
 鹿沼ト稱  
 アリル名  
 産出地ニ  
 シテ我國  
 第一ノ地  
 ナリ

那須野ヶ原  
 原ハ十里  
 野ナレド  
 モ土質ハ  
 ニシテ昔  
 ナリハ野  
 近來ハ之  
 ナリハ之  
 ナリハ之  
 ナリハ之  
 ナリハ之

日光は我國第一の勝地にて、徳川氏の廟地たり、其建築壯觀なる土地の高燥にして山水の風景に富める、實に比類なき所なり、地は宇都宮市の北方九里の處に在り、山中に中禪寺湖あり、華嚴の瀧は湖水の水の溢れ出するものなり、日光町は日光山の麓に在りて夏季は大なる賑ふ。

宇都宮市の西南に在る名邑は、足利、佐野、栃木等にして、共に絹織物の産出を以て其名高く、真岡は晒木綿の産地にして、真岡木綿の名世に高し。

那須野ヶ原は本縣の北部にありて、北に聳ゆるは、那須山なり、那須野ヶ原の西方那須山の西麓に、那須及び塩原の温泉あり、日本鐵道は原の中央より、稍や北部を東に向つて走る。

栃木縣の物産 絹織物、木綿、麻、漆、米等にして、山中よりは石材、六ヶ村及び木炭、薪を出す。

### ◎ 練習問題

○東山道

- 朽木縣の地勢を示せ
- 宇都市の狀況を問ふ
- 日光の景況を問ふ
- 縣下の温泉を問ふ
- 朽木縣の重なる物産を示せ

◎福島縣

福島縣廳 是福島市にありて、岩代一ヶ國と磐城の西部七郡を管轄す。  
 福島縣の地勢 北部國境は山岳に富むも、其他は一般に平地にして、阿武隈川  
 阿賀ノ川の灌漑を受けて、土地大に肥へ農業牧畜の業盛なり。福島縣の鐵道  
 は朽木縣より本縣に入り、白河を経て郡山、二本松を過ぎ、福島市を経て宮城  
 縣に入る、郡山よりは岩越鐵道起りて、若松市を過ぎ新潟縣に入る、又た海岸  
 には常磐鐵道茨城縣の水戸より來りて、平、原、中村を過ぎて宮城縣の岩沼に

福島縣下  
 各名邑  
 一般ニ  
 行業ニ  
 行

至りて止む、福島町より出るものは山形縣の米澤を経て山形市に至る、白河町  
 は本縣の南部に在る小都會なり、白河の東方海岸の名邑は平にして、此附近よ  
 り石炭を産す。

福島町は本縣の東北部の平野に在り、町に沿ふて流るゝは阿武隈川なり、福島  
 縣廳の所在地にて、市街は蠶業盛んに行はるゝを以て、土地豊かにして繁昌を  
 極む。

二本松郡山本宮等の名邑は福島町と白河町の中間に在りて、共に蠶業を以て其  
 名高し、三春は有名なる牧畜場なり、若松市は本縣の西北部の平野に在りて、  
 會津地方の都會なり、若松城は松平氏の舊居城にして、戊辰の役に會津藩士の  
 立ち籠りたる處なり。

猪苗代湖 有名なる大湖にして、周回十五里を算す、若松市の東方に在りて、  
 湖水は北に流れて阿賀ノ川と成る、又た市の北方に聳ゆるは磐梯山にして、目  
 下息火山の狀態に在り、其又た北に高く峙つは吾妻火山なり。

○東山道

若松市ヨ  
 及ビ蠶  
 蠶ノ産ス  
 燭ノ産ス  
 其蠶燭ノ  
 如キハ色  
 々ノ彩色  
 施シタル  
 モノニテ  
 立派ナリ  
 磐梯山ノ  
 麓ニ温泉  
 場アリ  
 相馬焼ト  
 ハ舊相馬  
 氏ノ領地  
 中村ニ於  
 テ産出ス  
 ニテ美點

ト云フコ  
トハ趣味  
ニ宮中  
村ハ常  
鐵道ノ通  
路ニシテ  
福嶋ノア  
東方ノ海  
近キ處ニ

彎曲トハ  
号ナリト  
曲ツテ井  
ムコト

白石ハ片  
倉小十郎  
ノ宮城地  
ニシテ本  
縣南部ノ  
名色ナリ

福嶋縣の物産 其重なるものは繭、生絲、三春馬、石炭、相馬燒、會津塗、燭燭等なり。

### ◎宮城縣

宮城縣廳 は陸前の仙臺市に在りて、磐城の三郡と陸前の十二郡とを管轄す。宮城縣の地勢 西方一帯の地は山脈相重りて山形縣と境し、北は巖手縣に接し、東部一帯は太平洋に面して、海岸彎曲す、松嶋灣は海岸の西部に在りて、牡鹿灣は其東北部に在り、本縣の河流は西及び北に發して、松嶋牡鹿の兩灣に注ぐ。本縣の東部一帯の地方は平野にして、河流の灌漑十分なるを以て、土地肥沃野十數里に亘る、宮城野とは其平野を云ふ、故に農産の業著しく發達して、米穀の發育殊に良し。

宮城縣の鐵道 は福島縣より來り、白石、岩沼を経て仙台市に入り、北に走つて岩切を過ぎて巖手縣に入る、塩釜線は岩切にて岐れ塩釜に達す、福嶋縣の東

仙台城ハ  
一ニ青葉  
城ト云ヒ  
伊達家ノ  
舊城ナリ

仙台市内  
ノ最モ繁  
華ナル道  
路ハ芭蕉  
ノ辻ニテ  
つゞナリ  
ハ櫻田ケ  
所ナリト  
名

宮城縣ノ  
精織物ニ  
キハ八橋  
織仙台平  
トス

埋木トハ  
水中ニ埋  
テ製シテ  
シテ製セ

部海岸より本縣の岩沼に來るものは常磐鐵道なりとす。

仙台市は本州の東北部に於ける、第一の大都會にして、平野の南部に在り、市の中央を東に流るゝは廣瀨川なり、人口九萬五千を算し、宮城縣廳、第二師團司令部、第二高等學校、控訴院等の所在地なり、市街縱横に通じて商業盛んに、土地極めて繁華にして百貨常に輻湊す。

松嶋は松嶋灣に散在せる數百の小嶋にして、島は悉く松樹を以て滿され、嶋間を小舟に棹して回遊すれば、其風光得も云はれず、實に日本三景の一なり、松嶋の西方一体の海岸は千賀の浦と云ひ、塩竈は其陸上にある名邑にて、塩竈神社あり。

松嶋灣の東北に連なれるは、牡鹿灣にして、灣内に萩の濱石巻の二良港あり、共に船舶の出入絶へず、東京よりは汽船の往復ありて市街繁華なり、北上川は石巻に來つて海に入る、又其東方より南に向つて長く斗出せるは、牡鹿半島にして、金華山は半島の東に在り。

ルモノニ  
テ其色黒  
ク且質重  
クシツ盆  
茶壺等ナ  
重ニ製ス

宮城縣の物産 其重なる物は米、繭、生絲、絹織物、埋木細工、銅器等なり。

◎練習問題

- ◎宮城縣の地勢を問ふ
- ◎仙台市の状況を記せ
- ◎宮城縣の良港を示せ
- ◎松島附近の景況を問ふ

◎巖手縣

巖手縣廳 は盛岡市に在りて、陸前の二郡と、陸中の十一郡と、陸奥の二郡とを管轄す。

巖手縣の地勢 本縣の北及び西は山脈互ひに相重りて、青森縣と秋田縣の境を爲し、東部は太平洋に面すれども、其間諸處に山脈の起伏するあり、中央部は

盛岡市ハ  
舊南部氏  
ノ城地ナ  
ルヲ以テ  
一ノ南部  
ノ名アリ  
本縣ノ西  
ニ在ル高  
山ハ岩手  
山ニテ東

郡海岸地  
方ニ高ク  
時ハ早キ  
味ナリト  
一本木地  
大牧場ニ  
シテ南部  
馬ハ此地  
ヲヨリ出  
衣川ハ義  
經ノ敗レ  
シ處ニテ  
義經此ノ  
一戦ニ敗  
北セシヨ  
リ北海シ  
方ニ流地  
方ニ走ル  
鐵瓶ハ釜  
石産方ノ  
特産ニテ  
南部鐵瓶  
下名高シ  
ハ南部表  
ト云フテ  
其名高シ

一帯に平地にして、北上川其中央を流れて沃野多く、故に米穀の産出夥しく、又た牧馬の業は我國第一にして、夙に南部馬の名を以て世に知らる。

巖手縣の鐵道 日本鐵道は南宮城縣より來りて、一の關を過ぎ、盛岡市を経て青森縣に入る。

盛岡市は本縣平野の北方に在る都會にして、北上川に臨む、巖手縣廳及び騎兵第三旅團、各特私隊兵營の所在地なり、人口三萬五千を有す、市中よりは種々の物産を出して、商業盛んに土地賑ふ、市の北方に有名なり牧場あり、一本木にして良馬を産出す。

一の關は本縣の南部にある名邑にして、衣川は其の西北に在り。

釜石、宮古は本縣東海岸に在る良港にして、其船舶の出入多く商業大に振へり巖手縣の物産 其重なる物は縮緬、絹織物、鐵瓶、下駄の表、米穀、馬等なり

◎練習問題

○東山道

○巖手縣の地勢を問ふ

○盛岡市の概況を問ふ

○巖手縣の良港を記せ

○巖手縣の特産物を問ふ

◎青森縣

青森縣廳は青森市に在りて、陸奥の九郡を管轄す。

青森縣の地勢・本縣は本道の北部本州の北端にして、東西北の三面は海に臨み、南は巖手及び秋田の二縣に接す、斗南半島は北に斗出して、其北端更に廣がりて西方に突出す、恐山は其北端に峙つて、常に火煙を吐く、斗南半島と相並んで西に斗出するは、津輕半島にして、其内を青森灣と云ふ。

青森縣の鐵道は巖手縣より來りて、野邊地を過ぎ、青森灣に沿ふて西に走り、青森市に至つて止む。

青森市ハ  
對岸函館  
港トノ間  
津輕海上ハ  
ナリ

青森市ハ  
日本鐵道  
ノ終點ナ

奥羽西線鐵道は青森市に起つて、西南に走り、弘前市を経て南に走り秋田縣に入る。

青森市ハ  
附近ヨリ  
ハ美味ナリ  
ナリハ唐林橋  
ナリテ各産  
ヘテ各出ス

弘前地方  
ニテ産ス  
ル漆器ニ  
シテ美觀  
ニシテ且  
ニシテモ  
ニツシキ  
コトナル  
コトナシ  
ナリノ類  
ナリノ類  
ナリノ類  
ナリノ類

青森市は本州島の北端にて、青森灣に臨み、青森縣廳の所在地なり、海上三十里を隔てたる對岸は、北海道の函館港にて、常に函館と汽船の往復あり、水陸の便殊に宜しきを以て、市内は日に繁華に赴き商業も年と共に益繁なり。弘前市は青森市の西南に在る、本縣第一の都會にして、人口三萬六千餘あり、舊津輕氏の城地にして、城内に第八師團司令部あり、岩木川、市の北方を流れて周圍の平野に灌漑す、津輕富士の名ある岩木山は、西部海岸地方に屹立して攝木川其北麓を流れて十三海に入る。

青森縣の物産 其重なる物は、米穀、硫黃、津輕塗、林檎等なり。

◎練習問題

○青森縣の地勢を問ふ

○青森灣の狀況を記せ

○東山道

○青森市及び弘前市の状況を問ふ  
○青森縣の物産如何

◎秋田縣

秋田縣廳 是秋田市に在りて、羽後の八郡と陸中の一郡を管轄す。

秋田縣の地勢 本縣は本道の西北隅に位し、東部は陸奥山脈相重りて、其中央より西に支脈を出して、本縣を南北に二分す、故に本縣の平地は南北にありて西に廣がる、其北部平地には、能代川のしろ流れ、南部平地には御物川ごもの流れて、共に平野を養ふ、故に米穀、果實の發生殊に宜し、西部一帶の地は日本海に面して南方に男鹿半島、洋中に斗出し、八郎瀨を構成す、本縣の平野よりも林檎を出す秋田縣の鐵道 是北青森縣より來りて、大館にて西に曲り、能代に至つて更に南に曲り、八郎瀨に沿ふて土崎に出で、海岸に沿ふて秋田市に達し更に南して山形縣に入る。

男鹿半島  
沿海岸  
リハ鮭  
等ノ水産  
物ヲ出ス

秋田市ハ  
佐竹氏ノ  
城地ナリ

秋田縣ハ  
其大ナル  
高シテ名

能代塗器  
ハ漆器ニ  
シテ種類  
多シテ高  
ルモ向ナ

秋田織一  
ニトナ一  
コトナ一  
ニトナ一  
ル浮キ織  
稿ナリ

秋田市は羽後中央の西部海岸に近き處にありて、人口三萬三千を算し、秋田縣廳及び歩兵第四旅團司令部の所在地にして、二里の北には土崎港あり、即ち御物川の河口なり、市は土崎港と連絡を通するを以て商業盛んに、市内亦た極めて繁華なり、歩兵第十七聯隊の兵營あり。

土崎港は開港場にして、横濱と定期汽船の往復あり、本港よりは縣下の物産たる米及び銅を輸出す。

能代港は土崎港の北方に在りて、能代川の河口なり、本港も亦た船舶の出入多く商業盛なり、本港より能代塗の漆器を出す、又此附近の山岳よりは金、銅、硫黄、銀等を出す。

本縣第一の銀山は院内にして、秋田市の東南方山形縣の國境に在り。

◎練習問題

○東山道

- 秋田縣の地勢を問ふ
- 秋田市の狀況を示せ
- 秋田縣の良港を問ふ
- 秋田縣の物産を問ふ

### ◎山形縣

湯殿山ノ頂ヨリハ白烟ヲ吐ク  
轉々迂回トハ山トケルム  
山ノ間チケルム  
ナレトコト

山形縣應は山形市に在りて、羽前の九郡と羽後の一郡とを管轄す。  
山形縣の地勢 北は秋田縣に連り、東は大山脈を以て宮城縣と境す、西部は日本海に面す、火山脈は本縣の中央に於て廣がり、中に有名なる羽黒、月山、湯殿の三山を起す、最上川本縣の山間を轉々迂回して西に流れ、日本海に入る、其河口は即ち酒田港なり、故に本縣は平地に乏しく、唯だ東北部に於て平地を見るのみ、米澤平原の稱あり。  
山形縣の鐵道 は福嶋縣の福嶋町より本縣に入り、米澤市を過ぎて山形市に來

山形市ハ最上川ノ右岸ニ在リ  
最上川ノ右岸ニ在リ  
シテ最上川ノ右岸ニ在リ  
トナリ

り、其より最上川の沿岸平野の間を北に走つて秋田縣に入る。  
山形市は本縣の中央最上川の沿岸平地にある都會にして、人口四萬五千を算し、山形縣廳、歩兵第三十二聯隊の所在地なり、市内商業盛んにして、土地山間に在るにも拘はらず頗る繁華なり。

山形市の西北海岸秋田縣の境に在る良港は酒田港なり、最上川は酒田港に來つて海に入る、港内水深くして船舶の出入多く、大阪神戸横濱等より汽船の定期往復ありて、市街は大に繁華なり。

米澤市ハ上杉氏ノ舊城地ナリ  
米澤織ハ系織ニテ盛高尙ナルモノ

酒田港の南方に在る名邑は、鶴岡にして、土地山形市と酒田港の間に在るを以て、商業又た盛んに、一小都會を爲す、此の附近の土地を總稱して庄内と云ふ米澤市は有名なる米澤織の産出地にして、山形市の南に在り、本縣第一の商業地とす、人口三萬余を有して、市内よりは養蠶及び絹織物を産出す、米澤織の名世に高し、又た此の附近より盛んに薄荷を出す。

山形縣の物産 其重なる物は繭、生絲、米澤系織、薄荷等なり。

### ○東山道

◎練習問題

- 山形縣の地勢を問ふ
- 山形縣の三大山は如何
- 山形市の概況を問ふ
- 米澤市の狀況を示せ
- 山形縣下の良港を問ふ

第四章 北陸道

◎北陸道の位置及び分割

北陸道は本洲島の中央の北方に、東北より西南に日本海に沿ひつゝ細く長く延びたる地にして、若狭、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡の七ヶ國より、成り、此に福井、石川、富山、新潟の四縣を置きて分轄さる。

斷崖絶壁  
トハ切リ  
ガト成ツ  
テニコト  
ナアルコ  
ナリ

◎北陸道の海岸

日本海に面する一帯の海岸は、能登半嶋海洋中に長く突出するの外、概ね一直線を爲す、若狭の海岸には屈折多くして、若狭灣内に小濱灣あり、越前の海岸に敦賀灣あり、越中に富山灣あり、富山灣より東北一帯の海岸は屈折更に無く斷崖絶壁にして、有名なる親不知の險地あり

◎北陸道の地勢

本道の南部は飛驒山脈、白山山脈あり、北部には羽越山脈彌彦山脈木曾山脈等相連りて、東山道と境し、河流は信濃川阿賀川神通川射水川等東山道より來りて北流し日本海に注ぐ。

◎北陸道の氣候

親不知  
ハ海岸  
ニシテ  
道路ニ  
テ高ク  
テ来リ  
岸ナリ  
ト云フ  
シト云  
フ處  
ナリ



北陸道は一般に寒さ甚しく、冬季はシベリヤ大陸の西北風日本海の水蒸氣を含みて來り、其風山岳に當りて更に冷却され、即ち雪と成つて盛んに降る、此に於てか雪の國の名あり。

本道は越後に平野あり、越中、加賀、越前にも亦た平野ありて、信濃、阿賀、神通等の河流の灌溉を受けて、地味大に肥ゆるを以て、米穀を第一とし、桑麻、生絲、紡績等此に次ぐ生産物あり、又た各處の山岳より金、銀、木材、石炭、石油等を盛んに産出す。

### ◎福井縣

福井縣廳は越前の福井市に在りて、若狹越前の二國を管轄す。

福井縣の地勢 東南方は一帯に山岳相連りて高地を爲すと雖も、西北方は平地にして日本海及び若狹灣に臨み、日野川平野に灌溉して地味を肥す。

福井縣の鐵道 東海道線滋賀縣の米原に於て岐れ、近江の國境に聳ゆる膽吹山

本縣ノ東  
南方近江  
ノ國境ニ  
木芽嶺  
ノ昔此ノ  
嶺ニ關所  
アリテ北  
陸道ノ關  
門ナリト  
ナセ

福井市ハ  
舊柴田勝  
家ノ居城  
ナリシガ  
秀吉ノ爲  
メニ亡サ  
レテ後松  
平氏ノ居  
城トナリ  
シトナリ  
シ松平容  
公其名高  
シ

福井市ニ  
ハ鳥ノ  
子紙ヲ出  
ス

脈の木芽嶺の隧道、即ち柳ヶ瀬隧道を過ぎて敦賀に至り、福井市を経て石川縣に入る。

敦賀港は本縣の中部日本海岸に在る良港にして、北陸道第一の開港場なり、市内には歩兵第十八旅團司令部を置かる、金崎の宮は敦賀町に在り。

福井市は本縣の北部の平野にある都會にして、福井縣廳の所在地なり、人口四万五千を算し、市中は概ね機業家にして奉書紬及び羽二重を産出して、外國に輸出す、市中の中央を東西に流るゝ川は足羽川なり。

福井市の附近に大野、勝山等の名邑あり、共に羽二重、奉書紬、紙等の産出地なるを以て、土地大に富めり。

鯖江町は亦た名邑にして、歩兵第三十六聯隊の兵營あり、小濱町は若狹灣の東岸に在る港にして、海産物に富み、又た若狹塗の名産ありて、若狹第一の都會なり。

福井縣の物産 其重なる物は羽二重、奉書紬、奉書紙、鐵器、漆器、鳥ノ子紙

### ○北陸道

蚊帳等なり漁産物は若狹鯛、若狹鯉、雲丹等其重なるものとす。

### ◎練習問題

- 北陸道の區劃及び位置を問ふ
- 北陸道全般の地勢及び氣候を問ふ
- 北陸道の海岸の狀態を示せ
- 福井市の狀況を問ふ
- 福井縣下二開港場の狀態を示せ
- 福井市附近の名邑を記せ
- 北陸道に雪を多く降す理由如何
- 福井縣の物産を問ふ

### ◎石川縣

石川縣廳 は加賀の金澤市に在りて、加賀能登の二國を管轄す。

東南山脈  
ノ中ニ高  
ク時ツハ  
即チ白山  
ナリ

石川縣の地勢 東南は山岳相連るを以て、土地極めて高く且つ峻しと雖ども、北方海岸に向ふに従つて平坦にして平野多し、能登半島の東部海岸に在る大灣は即ち七尾灣なり。石川縣の鐵道 官設北陸鐵道は福井縣より來つて、大聖寺小松を過ぎ、金澤市を経て富山縣に入る、又た津幡より岐れたるは七尾鐵道にして七尾に至つて止む。

金澤市の  
舊前田侯  
ノ居城ナ

兼六公園  
ハ前田家  
ノ建造ニ  
係ルモノ

金澤市の  
工業眼細  
工物出ゾ

金澤市は本縣中部の北方に在りて、石川縣廳の所在地なり、第九師團司令部、第四高等學校、地方裁判所等あり、人口十萬五千を算して北陸道第一の大都會なり、市中は商業盛にして大買巨商賈を並べて繁昌を極む、市街の高地に在る公園は即ち日本三公園の一なる、兼六公園にして、園内山水の風景別けて絶佳なり。

### ○北陸道

金澤市の南部に小松、大聖寺の名邑あり、彼の有名なる加賀絹、九谷燒等の産

地なり。

金澤市の北に在る港は、金石港にして貨物の集散少なからず。

大聖寺ノ  
附近ニ山  
中ノ温泉  
アリ

津幡は北陸鐵道と七尾鐵道との分岐點たる名邑にして、七尾町は七尾灣の南岸にある開港場にして、能登第一の都會なり、港内水深くして、巨船の出入碇泊に適す。

和倉温泉は七尾町の附近の高地に在りて、其名高し石川縣の物産其重なる物は九谷燒、加賀絹、銅器、陶器、象眼、細工、輪嶋塗等にして、海産物にも富み、雲丹も又た名産なり。

◎練習問題

- 石川縣の地勢を問ふ
- 金澤市の状況を問ふ
- 石川縣下の有名なる温泉を示せ

○石川縣下の名邑を問ふ

○石川縣の物産を示せ

◎富山縣

富山縣廳 是越中の富山市に在りて、越中一ヶ國を管轄す

富山縣の地勢 東西南の三面は山岳を以て圍まれ、北方は日本海に面す、其東南隅に聳ゆるは立山にして、西南の國境加賀の境に在るは、俱利迦羅峠及び礪波山にして、共に古戰場なり、北部は一帶に平地にして神通射水の二大川、本縣平地の東部及び西部を流れて、一帶の平野に灌漑す。

富山縣の鐵道 是北陸鐵道加賀の津幡より來りて、俱利迦羅峠の麓を迂回し、高岡市に來つて南北に支線を出し、其南せるものは城ヶ端に達し、其北せるものは富山灣の海岸なる伏木港に至る、而して本線は斜に東に進んで富山市を過ぎ、近く新潟縣直江津に聯絡せんとす。

俱利迦羅  
峠ハ平野  
盛アハ木  
戰仲ノシ  
ニシテ平  
家ノ大軍  
ホノ爲ニ  
フノ爲ニ  
處ナリ

街ハノド  
クビトイ  
フキミトイ  
テ大切ニ  
コトコロ  
ナ

富山市は本縣平野の中央に在りて、神通川市中を貫通して北流す、富山縣廳及び歩兵第三十一旅團司令部の所在地にして、人口六萬を算し、實に北陸街道の衝に當り、西は金澤市に通し、東北は越後の新潟と連る、市内は商業盛にして米穀の産出多く、繁昌を極め、北陸道の商業地と云ふ、又た市中に賣藥商多し。富山市の西方に在る一都會は、高岡市にして市内は商工業盛んに、銅器及び漆器の生産地として其名高し。

伏木港は射水川の海に注ぐ處に在る良港にして、富山海内の開港場なり、船舶の出入常に絶へず、大阪及び神戸よりは汽船の定期航海あり。

### ◎ 練習問題

- 富山縣の地勢を問ふ
- 富山縣の二大都會并に其都會の物産を問ふ
- 富山縣下の二大川とは如何

### ○富山縣の重なる物産を示せ

### ◎ 新潟縣

新潟縣廳は 越後國新潟市に在りて、越後一ヶ國と佐渡嶋とを管轄す。

新潟縣の地勢 越後は北陸第一の大國にして、西北一帯の地は日本海に面し、其海岸の長さ七十里を數ふ、東南は山岳互ひに連りて高地を爲す、其山脉より東及び西に各一條の支脈を北方に出して、越後全國を三分す、其東方支脈より北を下越後と稱し、西方支脈より南を上越後と云ひ、東西支脈の中間を中越後と呼ぶ。

本縣の西北方は一帯に廣大なる平野にして、信濃川及び阿賀川此の平野に灌漑して、地味甚だ肥ゆるを以て、米穀の産出夥しく、且つ米質善良にして、夙に越後米の名高し。

新潟縣の鐵道 は信濃の長野より北に進みて本縣に入り、高田を過ぎて直江津

○北陸道

沙洲トハ、  
スナコトツ  
アラスカ  
ナリハ炭  
酸瓦斯ニ  
ア之ニ火  
チガズレ  
イテモエ  
ル新田五  
東南ニ五  
名邑アリ  
蘇業盛ナ  
此地ニテ  
務地五泉  
平ヲ産出  
十日市ヨ  
リハ好機  
キハ出ス  
小千谷ハ  
有名ナル  
越後地ナ  
産出地ナ

置野禰ニ  
ハ順徳天  
皇ノ御陵  
近所トシ  
御所トシ  
伐木シテ  
マタルニ  
建ラシメ  
ル粗末ナ  
址アリナ  
黒木御所  
ハ北條義  
時ノ御所  
ニシテ天  
皇ノ御所  
ナリ

に至り、東北に走り、柏崎を経て長岡に出で、信濃川に沿ふて新潟市に至る。新潟市は信濃川の河口に在りて、日本海に臨む、新潟縣廳の所在地にして、人口五萬五千を算し、市内は大に繁華を極む、新潟港は我國五港の一なれども、信濃川の河口に沙洲廣く相連り、且つ冬季には日本海の風波高くして、船舶の碇泊に便ならざるに依り貿易振はず。柏崎、寺泊、出雲崎等の諸港は共に新潟港の西海岸に在る小港にして、漁利甚だ盛なり。新發田は新潟市の東方に在る名邑にて、歩兵第十六聯隊の兵營あり、是れより西部新潟市の附近には、地中より自然と瓦斯の發生する處あり、土俗之を呼んで火井と云ふ。長岡は本縣下の有名なる名邑にして海氣織を産し、其東方は浦瀨と呼びて、石油産出地なり、其他高田、十日市、小千谷等の名邑ありて盛んに絹織物を産す。直江津は高田の北方海岸の地にして、船舶の出入碇泊に最も便なる處なるを以

て土地大に賑ふ高田町には第十三師團司令部及び各隊兵營所在す。

住渡は新潟港の西方三十二海里の海洋中に在り、島の西南に眞野灣ありて、灣の西北隅にあるは即ち相川なり、相川は島中第一の都會にして、金花山は相川の北方に聳へ、金の産物を以て其名高し、島の東北に良港あり、夷町の云ふ、港内水深く三方土地高きを以て、船舶の出入碇泊に便なり、此處より新潟市と漁船及び和船の往復あり。新潟縣の物産 其重なる物は米、越後縮、越後紬、越後丈布、五泉平、石油、金等なり。

◎練習問題

- 新潟縣の地勢を問ふ
- 新潟縣の物産を列記せよ
- 新潟縣の名邑を問ふ

○佐渡島の概況を問ふ

○新潟縣の物産を示せ

### 第五章 山陰道

#### ◎位置及び區劃

山陰道は本洲島の西部に位し、北は一帶に日本海に臨み、南一連は中國山脈を以て、山陽道と區劃さる、東部は畿内及び北陸道に接し、西部は山陽道の長門に連る、本道を丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見及び隱岐嶋の八國に分たれ、鳥取、嶋根の二縣を以て之を分轄す、但し行政上の便宜に依り、丹波、丹後、但馬の三國は、京都府及び兵庫縣の分轄に屬す。

#### ◎地勢

本道の山陽道に接する部は、即ち中國山脈にして、山多く地高くして平地少な

名和長年  
長門建武  
後建武  
島本山  
船上山  
テノ山  
ニノ山  
係ノ山  
當ノ山

く、其大なる山岳は伯耆の大山、出雲の三瓶山、さては三つの三國山等にして、其他山岳の名あるものは、大江山、由良ヶ嶽、船上山等なり、船上山は建武の中興に際し、名和長年勳王の旗を擧げたる地にて、其名高し、北方日本海に面する地方は、一般に平地を爲すも、地味は概ね瘠地にして、伯耆出雲の一部を除くの外は、沃野なく従つて農産の業に適する地少し。

河流は其源を南部の中國山脈に發して北流し、日本海に入る、其中の大なるものは、石見の江の川にして長さ凡そ五十里あり、此に亞ぐは宍道湖に入る斐伊川及び伯耆の日野川なりとす。

本道の海岸屈折少なく、殆んど一直線を爲す、故に港灣の著しきものなとも、其中にて良港と呼ばれたるは、石見の濱田伯耆の境なりとす。

#### ◎氣候

本道の氣候は、一般に寒く山陽道の降雪を見ざるに反して、本道は降雪多く、

○山陰道

南部の高地には丈余の積雲を見ること敢て珍しからず。本道は農産の業に適する地少なし、故に米穀の産出は著しからねど、牧畜の業は古來より盛んに行はれ、従つて名牛駿馬を産し、又た紙、蠟、漆、銀、鐵等の鑛物を出す。

### ◎鳥取縣

鳥取縣廳は因幡の鳥取市に在りて、因幡伯耆の二國を管轄す。

鳥取縣の地勢 南は中國山脉にして、其山脉の支脈北方に延びて、平地少なし北は日本海にして、西部出雲の堺に一灣あり、即ち中の海なり、中の海は夜見ヶ濱に依て外海と分たる。

鳥取縣の鐵道 山陰鐵道境港より米子に至り、東西に走りて、東は鳥取を経て兵庫縣に入り、西は島根縣に入る。

鳥取市は因幡の北部千代川の東岸に位して、鳥取縣廳及び歩兵第四十聯隊の兵

米子ノ附、近ニ御來、屋小ナリ、港小ナリ、津小ナリ、後トモリ、皇國此地ニヨリ、上長船年ト名、共和此船年ト名、山ニニ據ルリ、給ヒメアリ、高史ニ其名

營あり、人口は三万を算し、縣下第一の都會なり、此地は山陰道の咽喉に當り、國道を東すれば但馬丹波を経て京都市に達すべく、海岸に沿ふて國道を西すれば、米子を経て島根縣の松江に出づべし、南すれば即ち姫路に達すべし。

米子は中の海の東南隅に在る小都會にして、日野川其附近を流る、此地は國道の衝に當れるを以て商業盛なり。

米子の北方中の海の口に在る開港場は境にして、境港は港内水深く船舶の出入碇泊に適す、故に常に繁昌を極め、貨物輻湊せり、夜見ヶ濱は米子の東北日野川の河口より、長く海に斗出せる小半島を云ふ。

其他本縣の名邑としては、加露、倉吉等ありて、加露は白珊瑚の採集を以て其名高く、倉吉は緋の製出を以て其名を知る。

鳥取縣の物産 其重なるものは、實綿、木綿、緋、牧牛、砂金、鐵、白珊瑚等にして海岸は漁業盛なり。

### ◎練習問題





三瓶山ノ火口ノ噴火ノ類ガ飛ハシメテ其ノ上ニ炭酸瓦斯ヲ噴出セルハ後醍醐天皇ノ御宇ニ於テ御所ノ北ニ有リ  
 三瓶山ノ火口ノ噴火ノ類ガ飛ハシメテ其ノ上ニ炭酸瓦斯ヲ噴出セルハ後醍醐天皇ノ御宇ニ於テ御所ノ北ニ有リ  
 三瓶山ノ火口ノ噴火ノ類ガ飛ハシメテ其ノ上ニ炭酸瓦斯ヲ噴出セルハ後醍醐天皇ノ御宇ニ於テ御所ノ北ニ有リ

高く、國道は松江の西方今市に於て杵築街道を岐つ。

海岸に沿ひ國道を傳ふて西すれば、濱田港に達す、濱田は石見第一の良港にして開港場なり、船舶の出入常に絶へず、石見地方の貨物集散地たり、此處に歩兵第二十一聯隊の兵營ありて、土地繁華を極む。

濱田の西に長濱あり、又た繁華の地にして、陶器を産す。

三瓶山は出雲と石見の國境の南部に聳ゆる大火山にして、息活山に屬す、其上四つの峯に分れ、其中央に舊噴火口ありて、常に炭酸瓦斯を噴出す、三瓶山の西麓に在るは有名なる大森銀山なり。

江ノ川は石見の中央を北に流るゝ大川にして、石見北部一帯の平野を灌漑し、且つ水運の便を助く。

隠岐嶋は松江市を距る北方、四十哩の海に在る大小數多の群島にして、嶋根縣の管轄に屬す、嶋内第一の良港は西郷港にして、其他西ノ島中ノ島等は歴史に其名著しき處なり、本島の住民は漁業を營み、鯖、烏賊、海鼠等の漁獲多く、

布志奈燒ハ赤黄色ニテ火鉢等ヲ製ス  
 及ビ鉄等

之を錫海鼠腸等に製して各地に送る。

嶋根縣の物産 其重なる物は、陶器、紙、砂鐵、銀、人參、蜜柑、麻、綿等にして、世に其名高き布志奈燒、樂山燒等は本縣の特産なり。

◎練習問題

- 嶋根縣の管轄區域を問ふ
- 松江市の處在を記せ
- 三瓶山の形狀を問ふ
- 嶋根縣の開港場は何處なるや
- 石見の銀山を問ふ
- 隠岐嶋の物産を問ふ
- 斐伊川に於ける歴史に有名なる處は如何
- 隠岐島に於る歴史に有名なる處は如何

○島根縣の物産を問ふ

### 第六章 山陽道

#### ◎位置及び區劃

山陽道は本洲の西部山陰道の南部に在る一帯の地にして、本道を播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門の八ヶ國に分ち、此に岡山廣島山口の三縣を置きて、分轄す、但し播磨一國は、行政上の便宜に依り兵庫縣に屬す。

#### ◎地勢及び氣候

山陽道の北部は中國山脉に依りて、山陰道と界し、南部一帯は瀬戸内海に面し東は畿内に接し、西の一部は日本海に面し、一部は馬關海峡を隔て、豊前と相對す。

本道の海岸は屈折最も甚しく、大小の港灣到る處に在りて、海上には無數の島

嶼、羅列す。

河流の著しきものはなきも、其最も大なるものは、岩國川、太田川及び東西の

大川、并に大川とす。

山岳の著しきものは、彌高山、鬼ヶ城山、笠形山那岐の山、蛭山等にして、皆

中國山脉中に起伏す。

氣候は山陰道に接する山地及び長門の北部日本海に面する地方は、寒冷なりと雖ども、其他は一般に温暖にして、寒暑の差著しからず、且つ降雨少なき地方なるを以て、沿岸は製塩の業盛にして、我國第一の製塩地とす。

且つ沿海の地方は、地味殊に肥へたるを以て、農産の業盛んに、従つて米穀の産出も亦多し。

#### ◎岡山縣

岡山縣廳は備前の岡山市に在りて、備前備中美作の三ヶ國を管轄す。

羅列トハ  
トビトハ  
ニナツテ  
ナラント  
ルコト  
東ノ大川  
ハ吉井川  
ニシテハ  
ノ大川ハ  
朝日川ナ  
起伏トハ  
出タリハ  
トコナデ  
ト

岡山城ノ  
コトナ  
ニト  
云フ

鍛錬トハ  
キダエル  
コト

岡山縣の地勢 本縣は東は兵庫縣の播磨に接し、西は廣島縣の備後に隣り、北方は中國山脈相聳へ、南方は一帶に平地にして、内海に臨む、平地には農産の業盛んに興りて煙草、茶、綿等は殊に其名高し。  
岡山縣の鐵道 山陽鐵道は播磨より來つて、東方國境に在る舟阪山の隧道を経て、岡山市に來り、西、倉敷玉島を経て廣島縣に入る、又た岡山より北に一線を出し、美作の津山を経て、勝山に至る、是れ中國鐵道なり、其他岡山より港井線及び守野線の支線を出す、宇野線は即ち四國鐵道と聯絡す。  
岡山市は舊池田氏の城下にして、縣下第一の都會なり、西ノ大川即ち朝日川市の中央を流れ、第十七師團司令部、岡山縣廳、高等學校地方裁判所等ありて、人口九萬を算す、市内は兒島灣に近く、水陸の便宜しきを以て、商工業盛んに土地大に繁昌す、市の北方に在る公園は、後樂園にして日本三公園の一なり、風光絶佳數寄を極む朝日川の下流海に入る部は、一帶に兒島灣にして、灣の近傍に牛窓の港あり、又た備前燒を以て其名高き伊部は牛窓の北方に在り、刀劍の鍛錬を以て名高き長船は其東方なり。

いんしよ  
院ノ庄ノ  
歴史ハ兒  
嶋高徳ガ  
後醍醐天  
皇ノ御代  
ニ遷シテ  
給フト聞  
キテ  
聖駕ヲ道  
ニ尊ビ奉  
ラント欲  
シテ即チ  
館ニ御  
入リテ樹  
木ニシテ  
去リシテ  
院ノ庄ハ  
其當時ハ  
皇ノ御代  
給ヒシ處  
ナリ

倉敷及び玉島の名邑は、共に岡山市の西方海岸に在りて、此地方は製塩の業盛んに、又た蠶表、綿等も此地方の物産なり。  
津山町は美作第一の都會にして、岡山市の西北にあり、雲齋織の物産を以て其名高し、市街又た繁昌を極む、津山の西に在る名邑は勝山にして、歴史に名高き院の庄も其西方に在り、院の庄には兒島高徳を祀れる作樂神社あり。  
岡山縣の物産、其重なるものは製塩、綿、煙草、茶、伊部燒、木綿織、蠶表、雲齋織等なり

◎練習問題

- 山陽道の位置及び區劃を問ふ
- 山陽道の地勢を問ふ
- 山陽道の氣候を示せ
- 山陽道の著しき山岳を示せ

○山陽道

- 岡山縣の地勢を問ふ
- 岡山市の状況を示せ
- 岡山縣下の名邑を問ふ
- 岡山縣の物産は如何
- 岡山縣下に於ける歴史に著名なる處を示せ

◎廣島縣

廣嶋縣廳 是安藝國廣嶋市に在りて、備後安藝の二國を管轄す。  
 廣嶋縣の地勢 東は岡山縣に接し、西は山口縣に隣る、北部は一帶に中國山脈にして高く、南は内海に臨みて中央に廣島灣あり、故に沿海の地は一般に平地にして、地味肥へ綿、米、麻等の産出多し。  
 廣島縣の鐵道 東岡山縣より來りて、福山、尾ノ道を経へ廣嶋市を過ぎて海岸に沿ひ、岩國に至つて山口縣に入る、又た廣嶋より吳港に至る支線を出す。

廣嶋市ニハ征清ノ役ニ大本營ヲ置セラル  
 廣嶋市ハ中國ノ大坂ト云ヒ  
 中國ノ大坂ト云ヒ  
 南ノ全盛ナルヨリ  
 廣嶋ハ大坂ノ如ク  
 西ニ於テ商業ノ極メテ盛ナルト云フ  
 嚴嶋神社ハ平ノ建シニカ、ル  
 水涯ハ水ギラノコト  
 廻廊ハ廻廊ト云フ

廣島市は本縣の西部廣嶋灣頭に在る大都會にして、俗に中國の大坂 廣嶋縣廳控訴院第五師團司令部等の所在地にして、人口廿二万を算し、市の山には太田川流れ、其支流市内を縦横に走りて、水陸の運輸至便に、商業大に發達して、其繁華なること實に大阪に次ぐ。

太田川の河口は宇品港にして、此の附近の海中より牡蠣海苔の採收極めて多し。廣嶋灣内には倉橋島、江田嶋、宮島等の有名なる嶋なり、灣の東岸に在る軍港は吳にして、第二海軍鎮守府海兵團及び海軍造船所あり、吳港の前に横はれるは、即ち江田嶋にして海軍兵學校あり、宮嶋又嚴嶋は廣嶋灣の西方海上に在り、嶋には嚴島神社あり、社殿は水涯にありて長き廻廊は左右に延び、更に曲りて神殿を包む、潮水來れば神殿廻廊共に波間に浮びて、其壯觀喩ふるに辞なく、且つ神殿の背に在る丘陵亦た幽邃にして、天然の佳景に人意の結構を加ふ、實に日本三景の一なり、又た近頃海中に石造の大鳥居は建られぬ、其高さ三十尺以上に及び、其太さ十尺を算すと云ふ

○山陽道

尾ノ道市ハ  
シキコト  
最ノ神  
ハ市杵島  
姫ノ命  
福山地方  
ハ物産ニ  
富ミコト  
地方ヨリ  
産出ス  
産物  
等ヲ産ス

尾ノ道市は廣島の東部備後の海岸に在る都會にして、其繁昌廣島に亞ぐ、市の西方に在る開港場は、糸崎にして船舶の出入常に絶へず、彼の有名なる備後表は此邊一帶の地方より産出す。

福山は尾ノ道の東方備中の國境に近き海岸に在り、彼の保命酒を以て名ある頼ノ津は、福山の南方海中に斗出せし處なり。

廣島縣の物産、米、綿、大麻、絹織物、木綿織物、鹽、表、花莫蔭、牡蠣、苧、甘藷及び鐵等なり。

### ◎練習問題

- 廣島縣の地勢を問ふ
- 廣島市及び其附近の有名なる地を記せ
- 廣島縣の物産を問ふ
- 宮島の概況を記せ

### ◎山口縣

山口縣廳は周防の山口町に在りて、周防長門の二國を管轄す。

山口縣の地勢、東は廣島縣に接し、西南及び北の三面は海に面す、而して東北石見との國境には、中國山脈連りて高地を爲し、其支脈南に延びて周防と長門の國境を爲す、故に本縣は平地少なし、因て農産の業は盛ならざるも、製鹽の業は我國第一にして、海産の收獲亦頗る夥しく、牧畜の業大に振へり。

山口縣の鐵道、東廣島縣より岩國に來り、徳山三田尻を経て厚狹を過ぎ、山陽鐵道の終點たる馬關に達して止む。

山口町は本縣中央周防長門の國境に在る都會にして、市街は商家軒を竝べて、大に賑ふ、山口縣廳及び歩兵第二十一旅團司令部あり。

三田尻は山口町の東南海岸に在る良港にして、船舶の出入多く、殊に此邊一帶の海岸は、實に盛なる製鹽場にして、其産額蓋し我國第一なりと云ふ、三田尻



南海道は紀伊淡路の二國と四國島とを合せて云ふものにて、紀伊は本州の中部より南方に斗出し、淡路は瀬戸内海に在り、此に阿波、讃岐、伊豫、土佐の四國を合し、六國と成る因て南海道は六國に分たれ、此に和歌山、徳嶋、香川、愛媛、高知の五縣を置きて分轄す、但し淡路島のみは、行政上の便宜に依り兵庫縣に屬す。

### ◎地勢及び氣候

本道は四國山脈東西に亘り、其より支脈を南北に出し、且つ九州島より來れる阿蘇火山脈四國に渡りて、噴起せるを以て、山脈四國全島に擴がり、到る處山岳あり、唯吉野川の流るゝ阿波一帶の地方のみは平野なれども、他は概ね高地にして、著しき平野を見る能はず、其山岳の著しきは劍山、笹ヶ峯、石槌山等とす。

河流は東流して太平洋に入る吉野を第一とし、之に亞ぐものは仁淀川とす、又

た紀伊の紀ノ川も大なり。

氣候は一般に温暖なり、只伊豫讃岐の山地は稍や寒冷なりとす、又た紀伊の南端土佐の南方は、我國第一の降雨多き地とす

本道の地味は河流の灌溉十分なるを以て、一般に肥沃にして農業に適し殊に藍の發生我國第一とす、又た海岸各地には水産の利多し。

### ◎和歌山縣

和歌山縣廳 は紀伊國和歌山市に在りて、紀伊の七郡を管轄す。

和歌山縣の地勢 四國山脈の本洲に渡りて、紀伊山系を起すを以て、本縣下は一般に山岳を以て滿され、平地少なし然れども紀ノ川の流るゝ沿岸地方は、一般に平地にして、且つ地味肥たり、本縣は東西南の三方海を以て圍まれ、其南端を潮岬と云ふ、潮岬より東北の海上は熊野浦にして、西北の海上は紀州灘なり、潮岬の東に一大島あり、大島と呼ぶ、本縣の海岸は屈折少なく、従つて良

港なし、唯西部海岸に田邊及び湯淺の二港と、東部海岸に新宮とあるのみ。

和歌山縣の鐵道は大坂より來る南海鐵道と和歌山市に達し、奈良縣より來れる紀和鐵道と和歌山市に達して、奈良縣と大阪府との連絡を爲す。

和歌山市は本縣西北隅に位し、紀ノ川市の北を流る、南海道第二の都會にして、人口七萬二千を算し、和歌山縣應步兵第三十二旅團司令部の所在地なり、市中は商業盛にして、市内處々に紀州フランネルの工場あり、此地は陸路大和、和泉、大阪に接し、海路は淡路四國神戸等へ通ずるを以て、貨物の集散非常に宜し。和歌山市を距る南方一里餘の海岸は、即ち有名なる和歌の浦にて風光の眺め殊に宜しく、日本三景に亞ぐ勝地なり。

高野山は市の東方に聳ゆる峻山にして、山上には弘法大師の開きたる金剛峯寺あり、山は官林に屬すを以て數百年を経たる老樹繁茂し、其間に寺院あり、勝地ありて、實に我國有數の靈地とす。

高野山の西北に名地あり、粉河と云ふ、即ち粉河寺の在る處なり。

那智山は高野山に並ぶ峻山にして和歌山市の東南に在り、山間の瀧は即ち那智の瀧にして、高さ八十四丈巾十八間あり、我國第一の大瀑布なり。

新宮は本縣下の名邑にして、東部海岸熊野川の河口に在り、其海上は熊野浦にして、此處より那智の大瀑布を望み得べし。

湯淺及田邊は、西部海岸の良港にして、大阪神戸と汽船の往復あるを以て、土地大に賑へり。

和歌山縣の物産 其重なる物は、綿フランネル、蜜柑、黒江塗等なり

### ◎ 練習問題

- 南海道の地勢を問ふ
- 南海道の河流を示せ
- 南海道の氣候を問ふ
- 和歌山市の状況を示せ



○和歌山縣下の勝地を問ふ  
○和歌山縣の物産を問ふ

◎德島縣

德島縣廳 是德島市に在りて、阿波全國を管轄す。  
德島縣の地勢 本縣は四國島の東部に位し、東南一帶の地は太平洋に面し、西北は四國山脈及び讃岐山脈相連り、西方土佐の境に殊に高く聳ゆるは劍山なり。  
北部地方は即ち阿波平野にして、吉野川の灌漑に依り、土地大に肥へ、有名なる阿波藍、砂糖等は此の平野より産出せらるゝなり。德島縣の鐵道は德島市に起りて、平野を西に走り鴨島川島等を経て船戸に達して止む。德島市は本縣の東北隅に位し、吉野川の河口に在り、德島縣廳步兵第十旅團司令部の所在地にして人口六萬三千を算し、南海道第一の大都會なり、水陸の交通便利にして、大阪

市とは日々汽船の往復あり、且つ國內の産物は皆本市に集りて、四方に送り出さるゝに依り、市内は商業盛んにして、土地大に富む、本市の西方に鴨嶋船戸等の名邑あり。

德島市の北方鴨戸海峽に面する海岸に良港あり、即ち撫養港なり、淡路嶋に渡る要津にして、船舶の出入常に絶へず、爲に港内繁華を極む。

有名なる鳴門なるとは此の附近の海上に在りて、潮流大岩礁を衝きて、大小二個の渦うず巻と成り、其響雷の如く一里餘の處に在るも、其響き手に取る如く聞えて凄しく、其大なる方は直徑一里に亘る渦を巻く、之を大鳴門と云ひ、小なるものを小鳴門と云ふ。

國道は德島市より海岸に沿ふて南し高知縣に入る。  
德島縣の物産 其重なる物は藍、砂糖、塩、緞織等にして海産物亦た多し。

◎練習問題

○南海

要津ハコ  
ネ船ツキ  
トナリ  
織トハ  
俗ニ云フ  
阿波チヤ  
ミノコト  
ニテ徳嶋  
市及ビソ  
ノ附近ヨ  
ト産出ス

○德嶋縣の地勢を示せ

○德嶋市の状況を記せ

○鳴門の状況を問ふ

○德嶋縣の物産を列舉せよ

○撫養港の位置を問ふ

◎香川縣

香川縣廳は高松市に在りて、讃岐一ヶ國を管轄す。

香川縣の地勢 本縣は南方に讃岐山脈連りて、徳嶋縣と界し、東西北の三面は瀬戸内海に面す、南方は一帶に高地なれども北方沿岸は一般に平地にして、讃岐平野を爲し、米穀甘蔗の産出夥しく、米穀は四國第一の收穫なりと云ふ、又た沿岸の地方は、製鹽の業盛にして漁利亦た多し。

栽培トハ  
ウエンダ  
アルコト

香川縣下は最も甘蔗の栽培に適するを以て、農家は一般に甘蔗の栽培を營み、

其産額我國第二とす、(第一は臺灣嶋なり)故に従つて砂糖の産出多し。

香川縣の鐵道は高松市に起り、西南に走り丸龜、多度津、善通寺を経て、琴平に達して止む、國道は高松より東に海岸に沿ふて、徳嶋市に達す、其間に志度、引田の名邑あり。

高松市は讃岐中部の北方海岸に在り、香川縣廳の所在地にして、大阪神戸及次中國の諸港より來る船舶の出入常に絶ゆることなく、徳嶋市に亞ひての都會なり、市中は一般に商業盛にして、縣下の物産は皆な此地に集り、其れより船舶の便に依りて各地に送らる。

高松市の東方海岸に在る名邑は志度ヶ浦なり、志度と高松市の中間に在る古戰場は屋嶋にして、有名なる五劔山は志度の西北海中に斗出したる半嶋上に聳へり。

屋嶋ハ平  
家ノ軍一  
ノ谷ニ敗  
來リタル  
處ニシタル  
此ニ又タル  
戦ノ利  
アト家ハ  
長門ノ邊  
ノ浦ニ遊  
五劔山ハ  
又トモ云

志度ヶ浦より東方は讃岐平野の地味最も肥へたる地方にして、米穀、甘蔗、塩砂糖等は此地方にて産出さる。

○南海道

フ其ノ頂  
ニ五ツノ  
峰カ登ル  
テルヨリ  
五級ノ名  
アリ併シ  
今ハ其一  
峰ヲ欠ク

高松市の東北に當る海上に在る大なる嶋は、有名なる小豆嶋にて、嶋中に紅葉の名所寒霞溪あり、小豆嶋へは汽船の便ありて交通自在なり。高松市の西方に在る名邑は九龜市にして、第十一師團の兵營あり、其西に在る港は多度津にて、本縣第一の良港なり、善通寺は多度津港の南に在り、此に第十一師團司令部を置かる、象頭山金刀比羅神社は、善通寺の南琴平町に在りて、參詣者四季絶ゆることなく、故に琴平の市街は大に賑へり。香川縣の物産 其重なる物は、米穀を第一とし、白砂糖、鹽、之に亞ぎ其他醬油、保多繙織等其名高し。

◎練習問題

- 高松市の概況を問ふ
- 高松市東部の名邑を問ふ
- 高松市西部の名地を列舉せよ

○香川縣の農産物の狀況を問ふ

◎愛媛縣

愛媛縣廳 は松山市に在りて伊豫全國を管轄す。

愛媛縣の地勢 南部は四國山脈に依りて、高知縣と堺し、東部は香川縣に接し北部は内海に臨み、西部は豊後水道に面す、且つ中國山脈の面に、阿蘇火山脈起伏して、石槌山高く聳へ、山脈の支脈縣下に廣がるを以て、平地少なし、而して北及び西の海岸は屈折最も多くして大小の港灣あり。

愛媛縣の鐵道 は松山市を起點として、四方に岐る、一は海岸に走りて、三津ヶ濱に達し、一は道後に赴き、一は立花を経て横河原に達し、一は郡中に至る此の四方に岐る鐵道は松山市の附近に散在せる名邑を連絡せしのみにて、凡ての交通は、國道に依らざるべからず。

松山市は本縣の中部、瀬戸内海の邊に在り、愛媛縣廳歩兵第二十二聯隊の兵營あり

り、人口三万八千を算して、伊豫第一の都會なり、市中は商業盛んにして、木綿織を産す、即ち松山綿なり。

三津ヶ濱は有名なる魚市場にして、松山市の西に隣れる海岸にありて、土地別けて繁昌せり、三津ヶ濱の海上には小島多く、其中にて名高きは伊豫の小富士と呼べる興居島なり。

道後せごは古來より温泉の涌出を以て其名高く、四國第一の温泉場にして、四季浴客の絶ゆることなく、土地爲めに大に賑ふ、松山市よりは汽車の便あり。

別子銅山べっしは松山市の東部に在りて銅を産す、其の北方海岸にあるは、今治港いまばりにして、本縣東北部の要港なり。

本縣の西南に斗出せるは佐田岬にして、佐田岬の南方高知縣に近き處に良港あり、宇和島と云ふ、宇和島は豊後水道に面して船舶の交通別けて宜しく、市街は商業盛んにして、木綿織物及び紙を産す。

宇和島の北方に在る名邑は大洲おほすにて、其東北に在つて名高きは八幡濱やわたら及び長濱ながはら

にして、此邊一帯の地は紙を産す。

愛媛縣の物産 其重なる物は、木綿織物、紙、銅、鐵、鹽及び海産物なり。

### ◎ 練習問題

- 愛媛縣の地勢を問ふ
- 松山市の状況を示せ
- 三ヶ濱の状況を示せ
- 宇和島の概況を問ふ
- 愛媛縣下の重なる物産を列挙せよ

### ◎ 高知縣

高知縣廳 は高知市に在りて土佐全國を管轄す。

高知縣の地勢 本縣は四國嶋の南部太平洋に面する一帯の地方にして、東西北

土佐海ノ  
神武天皇  
此地方ニ  
大地震一  
リ其時ニ  
此ノ海岸  
体ノ形ニ  
テ弓状ニ  
割レテ取  
ラレタル  
跡ナリト  
云フ

の三面は、四國山脈阿蘇山脈互ひに連りて高地を爲す、南方太平洋に面する地  
方は、土地平にして地味肥へ、農業の業に適し、米穀果實の發育頗る宜し、南  
部一帯の海岸は、即ち土佐灣にて鯨の魚利夥しく、鯨の漁利は全國第一にし  
て、之を鯨節に製す、即ち土佐節なり、土佐灣は東室戸岬西陸岬に依りて形成  
せらるゝ大灣にて、上古大地震の爲め、土地弓状に陥りて海と成りしものなり  
と云ふ。

高知縣には未だ鐵道の敷設なし、故に陸上の交通は海岸に沿へる國道に依るの  
外なし、然れども三面皆山脈なるを以て、他國との交通は海路に依るを至便な  
りとす。

高知市は本縣平野の中部土佐灣に臨む處に在り、市の北方を流るゝは仁淀川の  
支流にして鏡川なり、本縣第一の大都會にて人口三万八千余を算し、高知縣廳  
及び歩兵第四十四聯隊の兵營あり、水運の便宜しきを以て、市内は商業盛んに  
土地大に賑へり、市の前に在るは即ち浦戸港なり、高知市の西海岸に高岡及

高知市ハ  
ニ土佐節  
ノ名世に  
高知縣ニ  
ア産スル  
國第一ノ  
品質精良  
トナルモ  
トス

び須崎の二港あり、共に良港にして鯨節及び土佐紙を製す。

高知市の東方海岸に在る名邑は、夜須にして本縣東海岸の小都會なり。

高知縣の物産 其重なる物は、鯨、鯨節、鯨等の水産物を始として、米穀、果  
物及び土佐紙等なり。

### ◎練習問題

- 高知縣の地勢を問ふ
- 高知市の状況を問ふ
- 鯨節及び土佐紙の産出地は何處なるか
- 高知縣の物産を列記せよ

## 第八章 西海道

### ◎位置及び區劃

○西海道

西海道は本洲及び四國の西南に位する、即ち九州嶋にして、北は日本海と瀬戸内海に臨み、東北は太平洋に面し、西は支那東海に向ふ、本道を分けて筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對馬、及び琉球の十二ヶ國とす、而して壹岐、對馬、琉球の三國は九州嶋より離れて、南北の海洋中に在る嶋嶼なり、此に大分、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島及び沖繩の八縣を置て分轄す。

### ◎地勢氣候及び生産物

本道の山脈は南北に在りて其間に霧嶋阿蘇の二大火山脈相交りて四方八方に連り廣れり、其北に在るは肥筑山脈にて、脈中文珠山、鶴見山、英彦山等最も高く、南に在るは南部山脈にして、脈中市房山、祖母ヶ岳、國見山、桑原山、等最も高く、霧島火山脈には海開岳、霧島山、櫻嶋、温泉ヶ岳等最も高く、阿蘇火山脈には、阿蘇山、金峯山等最も高し。

本道の河流は南北の山脈より發して、四方に分流す、其中にて大なるものは、筑後川、川内川を第一とし、此に亞ぐは玖摩川、大淀川、五個瀬川等なり。山脈疊地に相連ると雖ども、各川の流域には平野多く殊に各川の灌溉十分なるを以て、土地一般に大に肥へ、農産の業頗る振へり、其平原の最も大なるものは、筑後川の沿岸にして、所謂筑紫平原是なり。

氣候は我國の西南部に屬するを以て、一般に温暖なりとす、然れども地勢に依り、中央山地或は西北部一帯の地は、支那及びシベリヤ大陸より來る寒風を受ること多きを以て、其東南部地方に比すれば、大に寒し、雨は我國第一の多き地方なりとす。

本道は氣候殊に温和に且つ降雨多く、平野は概して肥沃なるを以て、米穀、果實、煙草、甘藷、綿、藍等の農産物頗る豊かに、山脈は高山に富めるを以て、木材石材を出すこと夥しく、又た金銀銅石炭の産出も多し、其金と石炭の産出は本道を以て我國第一と爲す。

### ◎福岡縣

福岡縣廳 は福岡市に在りて、筑前筑後の二ヶ國と豊前の四郡を管轄す。  
 福岡縣の地勢 本縣は北部に於て、山脈四方に廣るも、南部は一体に平地にして、即ち筑紫平原を爲し、筑後川の灌漑を得て地味殊に肥へたり、本縣の豊前は瀬戸内海に臨み、筑前は北部に位するを以て、玄海灘に面し、筑後の西部は筑紫海に臨む、而して筑前筑後豊前の國境は、山脈を以て限らる。

福岡縣の鐵道 我國の鐵道中、本縣下は支線多く出るはなし、即ち九州鐵道は豊前の門司より起り、西小倉に於て支線を出し、一は南に走り行橋に至つて豊州鐵道と合し、其れより大分縣に入り、一は後藤寺川崎等に向つて走り、其より本線は西に進み、折尾に於て南北の二線を出す、北するものは若松港に達し、南するものは直方に至る、本線は更に西南に進んで、香椎、箱崎を経て福岡市に入り、博多を過ぎて肥前に入り、而して本縣の筑後に入りて、久留米に

達し、而して熊本縣に走るなり。

福岡市は本縣第一の大都會にして、博多と一區域を爲しつゝ、博多灣に臨む、市の中央を貫通するは那賀川なり、那賀川の東部は博多にして、西部は福岡なるも、今は合して一と成る、故に福岡市は福岡と博多とより成るなり、福岡縣廳及び歩兵第三十五旅團司令部の所在地にて、人口七萬五千を算し、水陸の便宜しく、物貨の輸出入盛んにして、船舶輻輳す、市内は博多織の名産を出し、商業別けて振へり、本市より諸方へ輸出する重なる物は、米穀及び石炭なりとす、太宰府は福岡市の東南に在りて、太宰府神社は菅公を祀る。

博多灣の東部海岸に歴史に名高き勝地あり、即ち香椎箱崎にして、香椎には香椎神社あり、箱崎には箱崎神社あり、此邊一帶の海岸は、即ち古の輪濱なり、久留米市は筑紫瀉(有明の海)の東北隅にて、筑後川の河口にある大都會にして、即ち久留米餅の産出地なり、市内には第十八師團司令部あり、又た有名な水天宮神社あり、商業盛んにして土地繁華を極む。

○西國

一區域ト  
ハ一ツツニ  
コト

福岡市ニ  
ハ福岡市ニ  
科大學校  
ヲ置カレ

輪濱ハ元  
兵ノ始メ  
シテ上陸セ

香椎ノ宮  
ハ神功皇  
后ヲ奉祀ス

箱崎神社  
ハ應神天  
皇ヲ奉祀ス

探掘トハ  
山ヲホツ  
テ石炭ヲ  
採リ出ス

市の南に在る鑛山は三池炭鑛にして、石炭の産出我國第一と稱せらる、三池より採掘せる石炭は之を大牟田きんぎょに送りて諸方へ運搬す、大牟田は筑後の南端に在る良港にして、船舶の出入常に絶へず。

門司市は豊前の北端に在る大開港場にして、其對岸は山口縣の馬關なり九州鐵道の起點にして、山陽鐵道と連絡を取る、即ち中國に渡る要津なれば、其繁昌亦た盛なり、本市より輸出さるゝ其重なる物は石炭なり。

小倉は小倉織の産出地にして、第十二師團司令部の在る處、市街亦た繁昌を極む若松港は筑前海岸の最良港にして、石炭の輸出夥しく、小倉の西方に在りて、九州鐵道の支線小倉より來る、又た官設大製鐵所あり。

筑後川は一に筑紫つくし二郎と呼び、我國三大川の一にして、其源は肥後の山脈中より發して、豊後に入り、筑後を経て筑紫灣に注ぐ、本川の流過する沿岸地方は一般は平野にして、地味肥へ、殊に筑紫平原を構成して、世に名高き肥後米の産出地は本川の沿岸地方なりとす。

福岡縣の物産 其重なる物は米、藍、菜種、生蠟、博多織、久留米餅、小倉織、莫蓆、疊表等にして、石炭の産出は我國第一なり。

### ◎ 練習問題

- 福岡縣の地勢を問ふ
- 福岡市の狀況を記せ
- 福岡縣下の名邑及び良港を問ふ
- 福岡縣の重なる物産は如何

### ◎ 大分縣

大分縣廳 は豊後の大分町おおいに在りて、豊後全國と豊前の二郡を管轄す。

大分縣の地勢 本縣は九州島の東北部に位し、北は瀬戸内海に臨み、南は豊後水道に面して、其對岸に斗出せる伊豫の佐田岬と、速吹海峽を爲す、九州島の南北山脈及び阿蘇火山脈本縣に於て互に相結合するを以て、縣下は一般に山岳



豊後富士  
ノコトナ

宇佐神社  
第一海  
社ニシテ  
功島大  
神天皇后

多く、北方に聳るは文珠岳にて、南方に峙つは祖母ヶ岳なり、東北方に殆んど圓形を爲して瀬戸内海に斗出せるは、國東半島なり、河流は大野川南部を流れ、其沿岸の平野は地味豊かにして、生蠟、米穀等を産し、又た牧牛の業大に振へり、豊後富士は西に聳ゆる活火山なり。  
大分縣の鐵道は豊前の行橋より本縣に入り、中津、宇佐を経て大分市に達す。故に大分以南の交通は、海岸に沿へる國道に依らざるべからず。  
大分市は本縣第一の都會にして、大分縣廳及び歩兵第七十二聯隊の所在地なり、此邊一帯の海岸は即ち大分灣なり、大分市は灣に臨み水運の便宜しきを以て、土地亦た繁昌を極め市内に釜鍋の製造を營む者多し。  
別府は有名なる温泉場にして、大分市の北部海岸にあり、前は大分灣にして、背に聳ゆるは即ち豊後富士の稱ある由布ヶ岳の活火山なり。  
大分灣の東南に有名なる佐賀の關あり、臼杵、佐伯等は共に本縣の南部海岸に在る名邑にして、常に船舶の出入絶へず、附近の海岸は一般に漁業盛なり。

耶馬溪  
山國川  
上流ナ  
石奇ナ  
水奇ナ  
充サレ  
メ風光  
ナ絶佳  
ル絶佳

宇佐は歴史に有名なる宇佐神社の在る處にして、豊州鐵道の終点なれば市街は商業盛なり、此邊より疊表を出す、彼の一口に琉球表と云へるは此邊にて製するものなり。  
宇佐の北海岸に在る名邑は中津にして、山國川の河口なり、此地又た繁昌を極む、彼の頼山陽翁が海内第一の勝地と激賞せし、耶馬溪の勝を探らんとせば中津より山國川に沿ふて上るべし。  
大分縣の物産。其重なる物は、米穀、牧牛、生蠟、疊表、釜鍋等の鐵器なり、又た海産物の産出夥し。

◎ 練習問題

- 大分縣の地勢を問ふ
- 大分町の状況を問ふ
- 大分縣下の良港を問ふ

○四海

- 大分縣下の各邑を記せ
- 大分縣の物産を列舉せよ
- 宇佐町の状況を問ふ
- 耶馬溪は何處に在るか

◎佐賀縣

佐賀縣廳は佐賀市に在りて、肥前の東部に位する八郡を管轄す。  
 佐賀縣の地勢 東部は福岡縣に接し、東北部國境には山岳重りて高地多く、中央より南方一帯の地は平野にして、川河の灌溉十分なるを以て、地味著しく肥へ、良米を産すること夥しく、肥前米の名は世に高し、西北部は支那東海に臨み、其前に横はれる大嶋は平戸嶋なり。  
 佐賀縣の鐵道 は九州鐵道の支線福岡縣の鳥栖より發して、西に走り、佐賀市を経て武雄、有田を過ぎて長崎縣に走る、有田より支線を出して、伊万里に達す、又た唐津鐵道は唐津を起點として、佐賀市に來り、九州鐵道に合する線路なり。

佐賀市は肥前平野の中央にある繁華の都會なり、人口三萬五千を算し、佐賀縣廳及び歩兵第五十五聯隊の所在地なり。  
 有田町は有名なる陶器の製産地にして有田焼の名世に高く、佐賀市の西方に在り、有田と佐賀市の間には、武雄にして名高き溫泉場なり。

伊萬里は有田の北方に在る良港にして、伊萬里灣に臨み此地より伊萬里焼を産すれども、其實は有田焼のことにして、有田より運ばれたる陶器を此處にて販賣するを以て此名あり。  
 本縣の北海岸に在る有名なる貿易港は、唐津にして、又た陶器を産し、且つ石炭を産す、世に唐津炭と云ふて其名高く、此の附近の海上には鯛の漁利頗る多し。  
 佐賀縣の物産 其重なる物は、米穀、陶器、石炭、魚類等なり。

有田ノ尾ノ陶器ノ名高クテト  
 相並ニテト  
 其名高クテト  
 東ニテト  
 瀬戸ノ有田ニテト  
 我ハ其器第一ニ  
 ナテハ其器第一ニ  
 我ハ其器第一ニ  
 ナテハ其器第一ニ  
 我ハ其器第一ニ  
 ナテハ其器第一ニ

◎練習問題

- 佐賀縣の地勢を問ふ
- 佐賀市の状況を記せ
- 佐賀縣下の陶器産出地を問ふ
- 唐津の概況を問ふ
- 佐賀縣の物産如何

◎長崎縣

長崎縣廳は長崎市に在りて、肥前西部の六郡と、壹岐及び對馬の二島を管轄す。

長崎縣の地勢 本縣は三面皆海にて、海岸の屈折夥しく、殆んど半島を四方より結合したる如くにして、其形狀宛然鳥の飛べるが如し。

長崎市ノ  
市中ヨリ  
ハ煙草及  
ビ鐵甲細  
工ヲ出ス

長崎縣の鐵道 は九州鐵道の支線佐賀縣の有田より本縣に入り、早岐に於て佐世保軍港に達する支線を出し、本線は大村灣即ち鯛の浦の海岸に沿ふて長崎市に至りて止む本縣の西部海岸上には、大小の島嶼夥しく散在し、大なるものは五島列島とす。

長崎市は大村灣の西岸を構成せる彼杵半島の南隅に在り、三方山を以て圍れたる、我國第一の良港にして、且つ最も古き開港場なり、人口十五方を算し、九州島第一の繁華なる大都會なり、縣廳控訴院地方裁判所等なり、港内水深くして波高からず、船舶の碇泊に最も宜しく、内外國の商船常に湊輻して、貿易盛んに行はる、輸出品の重なる物は、米穀石炭及び雜貨にして、輸入品の重なる物は石油、砂糖、練綿、牛皮等なり、港内に造船所製鐵所あり、又た本港より輸出する石炭は重に高嶺炭にして、其産出地たる高嶺は、港口の西方海中に在り、長崎市の東方に南へ斗出せる半嶺あり、即ち島原半島にして、其東岸に在るは島原町なり、半島の南端に良港あり、口ノ津と稱して、船舶の出入多く、

其南方の海上に横はれる大島は天草島にして、此の附近の海上に有名なる不知火の奇観あり。

不火知ト  
ハ海ノ上ニ  
ニ火ノ燃レ  
ルコトヲ  
云フ  
ト美事ナリ  
ト云フ

佐世保は大村灣内の北岸に在る軍港にして、第三海軍鎮守府及び海兵團あり、又た堅牢なる船渠ありて、市街は商業盛んにして常に繁昌を極む、日露戦争の初に當り、聯合艦隊の根據地たりしは佐世保なり。

大村町は佐世保の南に在る名邑にして、歩兵第二十三旅團司令部あり、佐世保軍港の西北の海上に在る大なる島は、平戸島にして、平戸港は其北岸に在り、元寇の役敵軍の風波を避ん爲め、立ち籠りたる鷹崎は、平戸島の北に隣れる小島なり。

五島列島は、長崎縣に於ける有名なる漁業地にして、鯨鯨の魚利多し、此島五つに分るゝを以て、五島と云ふ、南北に大島ありて、其中間に三個の小島あり南に在るを福江島と云ひ、北に在るを中通島と云ふ。

壹岐嶋は長崎市を距る七十余哩の北方海中に在り、其面積八方里半を有し、島

中の郷ノ浦は東岸に在る良港にして、勝本は島中の名邑なり。

對馬は南北の二島より成りて、面積四十四方里半を有す、本島は朝鮮の釜山と僅かに三十四哩を隔つるのみにて、實に日本海の關門に當る、故に對馬警備隊及び竹敷海軍要港ありて、日本海方面を守備す、嚴ヶ原は南島にある名邑なり、長崎縣の物産 其重なる物は石炭、米、煙草、鼈甲細工物、鯨、鯧等なり。

◎練習問題

- 長崎縣の地勢を問ふ
- 長崎市の状況を問ふ
- 佐世保軍港の位置及び状況を問ふ
- 壹岐及び對馬の一般を記せ
- 長崎縣下の名産を問ふ

◎熊本縣

○西海道

熊本縣廳は 熊本市に在りて肥後一國を管轄す  
熊本縣の地勢 北は福岡縣に接し、東南は阿蘇山脈と南部山脈とを以て圍まれ  
東部の中央に屹立して、絶へず火煙を吐くは阿蘇山なり、南部を流るゝは日本  
三大急流の一たる玖摩川なり、西北は一帶に平野にして地味肥へ、米麥甘藷等  
を産し殊に米は肥後米の名を以て知られたり、又た此の平野に於て牛馬を盛ん  
に飼養し名牛駿馬を出す。

熊本縣の鐵道 は福岡縣の久留米より南に走つて田原阪を越へ、熊本市に入つ  
て、南人吉を経て鹿兒島縣に入る。又た支線は熊本市の南方なる宇土に於て岐  
れ、宇土半島を西に走つて三角港に達す。

本縣の海上に在る群島は天草島なり。

熊本市は本縣の中央海岸を距る二里の東に在る大都會にして、四面皆平野なり、  
市の南部を流るゝは白川にして、人口七萬を算し、其商業の盛なる九州第一と  
す、縣廳第六師團司令部及び第五高等學校等ありて、市内の産物には朝鮮鮎、

西南ノ役  
トハ明治  
十年ノ西  
郡ノ乱ノ  
コトナリ

木綿織等其名高し、熊本城は我國の有名堅城にして加藤清正の建造にかゝり、  
西南の役谷將軍の籠城せし處にて、今は第六師團の司令部を置かる。

宇土半島は市の南に長く海中へ西に向つて斗出す、其西端は即ち三角港にして  
開港場なり、本縣よりの輸出米は一般に此の三角港に於て積み出さる。

宇土は宇土半島に在る名邑にして、玖摩川は其南方を流れ、八代は玖摩川の畔  
に在る繁華の市街なり、此附近よりは甲田焼、疊表、セメント等を産す。

熊本市の北に隈府、山鹿、高瀬等の市街ありて、共に繁華を極む。

熊本縣の物産 其重なる物は、肥後米、牛馬、麥、甘藷、セメント、疊表、甲  
田焼、木綿織等なり。

◎ 練習問題

○ 熊本縣の地勢を問ふ

○ 熊本市の概況を記せ

○ 四海遊

- 熊本縣下の良港を問ふ
- 熊本縣の物産を列記せよ
- 熊本縣下に在る火山脈は何山なるか

◎宮崎縣

宮崎縣廳、は宮崎町に在りて、日向一ヶ國を管轄す。  
 宮崎縣の地勢、南は鹿児島縣の大隅に接し、東部一帯の地は太平洋に面し、西北は山脈相連りて、其支脈國內に廣がるを以て、平野に乏し、然れども東部海岸地方は一帯に平地にして、大淀川及び五箇瀬川の灌漑を受けて地味大に肥へ農業に適す、又た山地は牧畜の業に適するを以て、牛馬の飼養盛なり。  
 宮崎町は本縣の南部海岸に近き處に在りて、大淀川其南を流れ、四方數里の間は一般に平野にして、地味最も肥ゆ、宮崎縣廳此處に在り、町は小にして人口僅かに一萬に足らずと雖ども、縣廳の所在地なるを以て、亦た繁華なり、本縣

延岡ハ本縣第一ノ繁華ナル

高千穂ノ宮代トハ神代ノトハニ天孫ノ降臨シ給ヘテ此ノ地ニ住ル其跡ナリ  
 天ノ逆鋒トハ石ニ丈二三尺

には鐵道なきを以て、交通は概ね海岸に沿ふたる國道に依らざるべからず、宮崎町には宮崎神社ありて神武天皇を奉祀す、宮崎町を中心として南北に名邑あり、其北に在るは延岡にして西南に在るは有名なる都の城なり。

延岡は本縣の北部五箇瀬川の下流に在る名邑にして、人口一萬を算し、熊本縣より來る國道と大分縣より來る國道との會合点なるを以て商業振ひ市街賑ふ。都の城は大淀川の上流にして、宮崎の西南方國境に近き處にあり、歩兵第六十四聯隊衛戍し、人口一萬餘を算して、本縣第二の繁華なる市街とす、歴史に名ある高千穂の宮跡は、此地にあり、此近方より製茶を産出す。

霧島山は都の城の北方國境に聳ゆる大噴火山にして、其頂東西の二峯に分れ、西峯は息火山の状態に在るも、東峯は常に火烟を吐く、天の逆鋒は其頂上に立てる長さ一丈余の石なり、

宮崎縣の物産、其重なる物は茶米穀馬匹海産物とす。

◎ 練習問題

- 宮崎縣の地勢を問ふ
- 宮崎町及び延岡の概況を問ふ
- 都の城の概況を記し高千穂の宮趾を説明せよ
- 霧島山の状態を問ふ

◎ 鹿兒島縣

鹿兒島縣廳は鹿兒島市に在りて、大隅薩摩の二國を管轄す。  
 鹿兒島縣の地勢 北は熊本宮崎の二縣に接し、西南は太平洋及び支那東海に面し、縣下は山岳諸處に聳へて、殆んど平地なし、唯だ川内川の流過する地方、及び海岸地方に平地あるのみ、本縣は東大隅半島と西薩摩半島に依て、一つの深き大灣を爲す、鹿兒島灣と稱す、灣内に櫻島あり。

鹿兒島縣の鐵道は鹿兒島市に起り、鹿兒島灣に沿ふて東北に走り、加治木より北に曲つて國府に至り、北走して熊本縣に入り以て九州線に聯絡す。

鹿兒島市は九州島南部の大都會にして、薩摩の中央に位し、鹿兒島灣の西岸に在り、甲斐川市中を流れて鹿兒島灣に入る、市の西北には城山あり、市の前には櫻島ありて、天然の風景を添ふ、人口六萬を算し、鹿兒島縣廳及び歩兵第三十六旅團司令部の所在地なり、港内水深く船舶の出入碇泊に便なるを以て、百貨輻輳し、市内は殊に繁昌を極む、櫻島は霧島山脈の海中噴起せるものにて、其土質は概ね砂地なるを以て、一般の農業に適せずと雖も、密柑及び大根の産出多く、櫻島大根は美味にして、且つ大なるを以て其名高し。  
 大隅の加治木福山は、鹿兒島灣の沿岸に在る名邑にして、福山は名馬を産し、加治木は其の北方の山中より金及び銀を産す。

國府煙草の名を以て世に知られたる煙草の産地、國府は加治木の東北方にあ

米サ大ナ  
ル竹ホド  
ア山ノ頂  
ガ山ノ頂  
上ニ立ッ  
テ井テ其  
石ノ頭ガ  
鬼ノ面ガ  
如キ形状  
ナセル  
ルモノ

加世田坊  
津ヨリ  
産出スル  
産節ハ即  
チ薩摩節  
ノコトナ

名邑なり。  
薩摩の出水及び阿久根は共に鹿兒島市の西北方に在る名邑にして、阿久根よりは焼酎を産す。  
其他薩摩の南部沿岸には、揖宿、山川、坊ノ津、加世田等の名邑あり、何れも船舶の出入ありて、漁獲の利多く、殊に坊ノ津、加世田は鯉節の製作を以て其名高し。

薩摩富士の名ある有名なる開聞ヶ岳は、薩摩半島の西南に聳へ、海上遙かに沖合より望み得らるるを以て、航海者に便利を與ふること少なからず。

本縣の西及び南海上には、歴史に關係せる數多の大小嶋嶼散在す、其重なるものを擧ぐれば左の如し、

西部海上に在るものは飯島にして二嶋に分る、南部海上にあるものは種子ヶ島寶七島、大島及び屋久嶋なり。

此の中に於て種子ヶ島はホルトガル人の我國に始めて鐵砲を傳へし島にて、昔

備後寛ノ  
平氏ヲ亡  
サントシ  
ア清盛ノ  
怒二觸レ  
メ流サレ  
ケル喜界  
嶋ノ大  
嶋ニ在ル  
嶋ナリ

は種子ヶ島鐵砲と云ふて、大に稱用されたることあり、大嶋は大嶋油黒砂糖の産出を以て名高く、寶七島よりは鯉節を産し、屋久嶋よりは松の名木を出す所の如く南部に在る群島は、種々の産物を出して、島民は其れを鹿兒島に送って諸方へ輸出す。

鹿兒島縣の物産 本縣は物産に富みて、國中の山岳よりは金銀錫を出し、木材を出す、農産物は煙草、甘藷、其名殊に高く、工業品には大嶋紬、薩摩紬、焼酎、薩摩焼等其重なる物にて、魚類の産出亦た夥しく、別て鯉節は其名高し、又た牛馬豚等を盛んに出す。

◎ 練習問題

- 鹿兒島縣の地勢を問ふ
- 鹿兒島灣の構成を問ふ
- 鹿兒島市の状況を問ふ



- 鹿兒島市の南部沿岸に在る名産を問ふ
- 鹿兒島縣の南部海上に在る著名なる鵜嶼の状況を問ふ
- 鹿兒島縣の物産を列舉せよ

◎ 沖繩縣

沖繩縣廳 は琉球群島中の沖繩嶋の那覇に在りて、全群嶋を管轄す。  
 沖繩縣の地勢 本縣は鹿兒島縣の西南の海上に、南北に長く羅列せる五十余の群島にして、總括して琉球と云ふ、此の五十余の群島を沖繩、宮古、八重山の三群島に區別す。  
 沖繩島は北部に在る群島にして、八重山群嶋は南部に在り、其仲間には宮古群島なり。  
 琉球列島には山岳諸處に隆起すと雖も高からず、海岸は一帶に平地なれども、水の灌溉に乏しきを以て、米穀の生育に適せず、島民は甘藷を作り、又は甘蔗

元ノ琉球王尚氏ハ今ハ華族ニ列セラレ候得テアラニ東京市ニ居住セシキ強キ酒造トハ

を作りて砂糖を製し、且つ盛んに豚を飼養す。

氣候は極めて暖和にして、嚴冬の頃と雖も、降雪降霜を見ることなし

那覇は琉球第一の都會にして、沖繩群島中の南に位する國尻嶋に在る開港場なり、人口四萬を算し、沖繩縣廳の所在地にして、本縣の産物悉く此處に集りて四方に輸出す、故に商業盛にして市街は殊に繁昌を極む。

那覇を距る一里の東に在るは、首里城にして、元琉球王尚氏の居城なり、此地風景極めて宜しく、市街亦た繁昌を極め人口二萬五千を算す。

交通は素より群嶋なるを以て、船舶に依らざるべからず、那覇、宮古、石垣の三島には、大阪及び神戸より汽船の往復あり。

沖繩縣の物産 其重なる物は紺紵、泡盛、塗物、砂糖、及び甘藷なりとす。

◎ 練習問題

- 琉球の地勢を問ふ

○那覇の状況を記せ

○首里城の概況を記せ

○沖縄縣の重なる物産を問ふ

### 第九章 北海道

#### ◎位置區劃地勢及び氣候

北海道は我國の最北部に位し、東南は大平洋に面し、西は日本海に北はオコック海に臨む、本道は北海道本島と千島群島とより成り、之れを十二ヶ國に分つ即ち渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室及び千島なり。

本道には北海道廳を置きて、全道を管轄し、其の下に左の十六支廳を置きて、行政事務を分轄せしむ。

札幌 函館 松前 檜山 後志 空知 上川 宗谷 増毛 網

走 室蘭 浦河 釧路 河西 根室 紗那

山脉は本道を十字形に走る、其千嶋より來るものは、根室に入つて西に走り、石狩山脉と成り、其間に雄阿寒山、雌阿寒山、石狩山、十勝岳を起し、宗谷より來る山脉は、東南に走りて本嶋の南端なる襟裳岬に終り、其間宗谷岳、天塩岳、神威岳を起し、後志山脉は後志岳に起つて、東及び南に延び、南に在るは駒ヶ岳、遊樂部岳最も高く、東に在つては後志岳、檜前山等最も高し。

河流は我國第一の大川たる石狩川、本道の中央に發して西に流れ、日本海に入る、南部には十勝釧路の二大川あり、西部に天塩川ありて、共に本道の平地に灌漑す。

本道は中央部に於て山脈互ひに集合するを以て、中央には平地なしと雖ども、海岸に近くに從つて平地多く、彼の石狩平原の如きは我國第一の廣野にして、而も地味大に肥へ、沃野數十里に連る、其他本道の平地は一般に肥沃なり。本道の氣候は概して寒く、其東南太平洋に面する部は、稍や温暖なれども、西

#### ○北海道

北部及び中央の高地地方は寒氣分けて甚しく、冬季は全般に積雪地を埋むと云ふ。

本道は土地廣く山岳にも富めば、肥沃なる廣野にも富むを以て、農産物の收穫も多く、山岳の天産物にも富み、且つ牧畜の業にも適し、殊に四方の海中にては、漁利多く、世界の漁業場とも稱すべき程なれば、實に我國の富源とも云ふべきなり、然れども内地は住民少なく、開拓日尙ほ淺きを以て未だ其利を悉にする能はず。

本道の交通は四方の海岸各港に汽船の往復あり、即ち、函館港を基点として、西海岸に沿ふて進めば、福山、江刺、小樽、増毛の各港は定期船往復す、又た函館港を基点として東に進めば、室蘭、釧路、根室の各港に定期船往復す、又た北部海岸は根室を基点として、北に進めば網走、紋別、枝幸を経て、千島の泊斜古丹、紗那の各港に定期船往復す。

北海道の鐵道 札幌より東西に岐れ、西するものは小樽を経て南に走り、内浦

山岳ノ天  
産物トハ  
金銀銅鐵  
ノ類及ビ  
石炭木材  
石炭等ノ  
トナク云  
フ

灣に沿ふて函館に達し、東するものは、岩見澤にて數多の支線を出す、北するものは砂川、空知、太を経て旭川に達して、又た南北の支線を岐つ、北は天塩に入り、南は十勝に入つて釧路に達す、舊炭鑛鐵道は岩見澤に於て、更に幌内支線を東に出し、支線又た二つに岐れて、一は幌内一は幾春別線と成る、而して本線は南に進み、追分に至つて東北に夕張線を出し、其より本線は西南に走つて、苫小牧を過ぎて、室蘭に終る。

尙幾多の線路は着々工事中にあり。

北海道廳 は札幌に在り、札幌は石狩平野の西南部にして、人口六萬三千を有し、農學校、病院、其他農工商に關する大會社あり、即ち札幌ビール會社を始め、製糖會社、麻製造所等、其大なるものにて、又第七師團の聯隊兵營あり、有名なる北海道林檎は此の附近より産す。

夕張炭山は本道の石炭産出地にて、石狩平野の東南隅にて、札幌の東方に在り

其附近に又石炭の産出地あり、即ち幌内、幾春別等なり。

小樽港は本道第二の開港場にして、札幌の西方小樽灣頭に在り、人口六万を算し、商業盛んにして常港より、石炭、木材、砂糖等を殊に多く輸出す、小樽港の西端に斗出せるは、神威岬にして神威岬の南方海岸に在る名邑は岩内、壽都とす、共に漁獵場にして、鯨、鮭、鱈の漁獵頗る多し、硫黄の産出を以て有名なる、奥尻島は後志の西南に在り。

旭川は石狩平野の東北隅に在りて、土地高く氣候寒し、第七師團司令部の所在地にして、鐵道の便あり、目下其附近の平野を盛んに拓殖しつゝあり。

増毛港は本道西部の良港にして、船舶の出入多く此より北方天塩港に至る迄の海上は、鯨、鮭、鱈の漁業場にして、其間の沿岸に留萌、苫前等の名邑あり、共に漁獵を以て其名高く、彼の有名なる天塩、昆布は此の附近に産するなり。

天塩港の北方海上に在る島は、利尻島にして、其北に竝べるは禮文島なり、禮文島の東に斗出せるは、宗谷岬にして本島の北端なり、其西岸に在るは宗谷港

なり。

宗谷岬より東南知床岬に至る迄の間には、枝幸、紋別、網走の三良港あり、共に函館、室蘭等より汽船の往復あり。

根室港は知床岬の南方に東へ斗出せる納紗布半島の北岸に在る良港にして、千島に渡る汽船は本港より出づ、半島の南岸に在るは花咲港なり、

釧路港は本島南海岸にして、納紗布半島と日高の襟裳崎との中間に在り、釧路川其傍を流れて海に注ぐ、此地は開港場にして且つ標茶へは鐵道の便あるを以て、其北方の山中より出る硫黄、木材等は本港に集りて輸出さるゝに依り、商業盛んにして土地賑へり、釧路の東方に在るは厚岸灣にして、西方に在る名邑は白糖なり、白糖の西に在るは十勝第一の名邑なる大津にして十勝川の河口より此の附近の海上は昆布の名産地なり、大津より西日高の沿岸はアイヌ人の部落にして、昔は此邊一帯の地に住ひたる、近時は本洲よりの移住民日に多きを加へるより、北方の山地へ避け、次第に種族滅して今は二萬近くを數ふるまで

となれり。

日高の南部沿岸は屈折極めて少なく、殆んど一直線を爲す、其沿岸の東部に在るは浦河にして、其西北の内地に大牧場ありて良馬を産す、新元と云ふ、浦河の西部海岸にあるは歴史に其名を知られし沙流にして、即ち源義經の本洲より逃れて來りて住居したる地なり。

室蘭は膽振の西南端にして、繪鞆岬の西岸に在る開港場なり、港内水深く波靜かにして、能く大船巨艦の碇泊に適す、故に我海軍省は本港を軍港とし、此に第五海軍鎮守府を設けらるゝ豫定なり、本港より輸出さるゝ重なる物は、麥、石炭、硫黄等をす、其北方に登ゆるは、後志岳にして、東麓に在る大湖は、洞爺湖なり、又た本港の西北に在る名邑は、白老、苦小牧にして共に鐵道の便あり。

渡島半島は本道の西南に南に斗出せる半島にして、其南端は即ち函館灣なり、灣の東は惠山岬にして、西は白神崎なり、故に函館灣は白神崎と惠山岬とに依

沙流ニハ  
社經ノ神  
土人ノ記  
ナリト云

白神崎  
ニ於テ日  
盛戰ノ日  
初メ露艦  
ハ暴行ヲ  
致テモリ

福山ハ昔  
時松前ト  
稱セシ處  
ナリ

て構成せらる、函館は函館灣に臨む良港にして、南方遙かに本洲の青森と相對し、即ち本洲に渡る要津にして、且つ我國五港の一に數へられ、港内は水深くして波靜かに、内外の船舶常に輻輳して商業非常に盛んに、土地の繁昌本道第一なり、人口九萬五千を有し、函館控訴院の所在地なり、本道の海産物、石炭、硫黄、木材等は皆本港より海外へ輸出さる、輸入品の重なるものは米穀茶石油等最も多し。

有名なる五稜廓は函館の北方に在りて、氷の製造場なり、福山は函館の西南に在る良港にして、市街亦た賑ふ、江刺は福山の北方西岸に在る名邑にて、鯨の漁利を以て名あり、函館の北方に登ゆる高山は、駒ヶ岳にして其北に在る良港は森なり、森港の對岸は即ち室蘭港なり。

千島列島は根室の東北に列なれる五十餘島の群島にして、國後島に始りて、占守島に終る、本島は總論に於て記せる如く、火山脈の其頂を海上に現はしたるものゆゑ、土質は燒土にして肥沃の平地なく、爲めに農産物の見るべきものなき

○北海道

も、沿海の漁利は我國第一なりと云ふ。即ち鯨、鮭、鱈、鰻虎、鰻魚、昆布等其重なる物なり。

北海道の物産 其重なる物は鯨、鮭、鰻、鱈、昆布、鰻虎、鰻魚等の水産物を始め、石炭、硫黄、砂金、砂糖等なり。

◎練習問題

- 北海道の地勢を問ふ
- 札幌の状況を記せ
- 函館港の状況を問ふ
- 小樽の状況を問ふ
- 石狩平原に在る二三の名産を記せ
- 函館附近の名産を示せ
- 室蘭の状況を問ふ

台 磯 崎 一  
一 二 三 四 五  
六 七 八 九 十  
十一 十二 十三 十四 十五  
十六 十七 十八 十九 二十  
二十一 二十二 二十三 二十四 二十五  
二十六 二十七 二十八 二十九 三十  
三十一 三十二 三十三 三十四 三十五  
三十六 三十七 三十八 三十九 四十

- 根室の概況を示せ
- 北海道中の高山を問ふ
- 北海道の海産物を問ふ
- 北海道の山岳より出る天産物を問ふ

第十章

◎臺灣島

臺灣總督府 は臺北に在りて、臺灣島と澎湖島と紅頭嶼とを管轄す。

臺灣島の地勢 本島は沖繩縣の西南方に在りて、東は太平洋に面し、南は遙かにヒーリッピン群島に對し、西は一百海里の臺灣海峡を隔て、支那の福州及び厦門と相對し、北は遙かに沖繩縣の入重山を望む。

山脈は臺灣山脈、北より南に延びて、全島を縦断し、其支脈東に延びて、東部は山岳相重なるも、西部は土地平坦にして農産の業に適す。

山脈の中央に高く聳ゆるは新高山にして、高さ一萬二千八百餘尺を算し、我國第一の高山なり。

河流は中央の山脈分水線と成りて、東西に流るゝもの多きも、常に水少なくして舟運の便に乏しく、僅かに沿岸地方を灌漑するのみ、唯だ北部の淡水河のみは、水深く巾廣く能く汽船を通ず。

臺灣島の海岸は屈折極めて少なく、北部に基隆港と南部に南灣あるの外著しき港灣なし。

氣候は我國に於て最も熱く、夏期は百度以上に達することあれども、島地なるを以て涼風常に來りて暑氣を拂ひ、決して堪へ難きにあらず、雨は春夏の候に少なふして、冬期に多く、宛然本土の梅雨期の如し、風は夏期に於て西南風多く、冬期に於て東北風多し。

臺灣島の鐵道は基隆港を起点として、西南臺北に進み、此處にて淡水港に至る支線を東に出し、本線は南に走つて新竹臺中、嘉義、臺南を過ぎ、打狗に至る。

臺灣島ハ長サ二百七十哩ノ長サ西ノ長サ四百六十哩ノ長サ東ノ長サ四百六十哩ノ長サ南ノ長サ四百六十哩ノ長サ北ノ長サ四百六十哩ノ長サ淡水河ニハ船ヲ往復スルベシ

其他は車馬の力を借りて道路に依るの外なし。

本島は南北の長さ二百十哩東西の最廣七十哩ありて人口全島を通じて三百萬人あり、而して山脈の東部一般に未開地にして、所謂る生蕃人の部落百餘各山地に散在す。

臺灣島の政治區劃は一總督府を置きて、其下に左の十二支廳を置きて、全島の政治を管轄す。

臺北。桃園。新竹。臺中。南投。臺南。阿猴。嘉義。澎湖。臺東。宜蘭。花蓮港。

臺北は四面皆山にして淡水河其西を流れ、人口八萬餘を算して、本島第一の大都會なり、臺灣總督府混成第一旅團司令部の所在地にして、市街は繞らすに城壁を以てし、此に東西南北の門を設けて内外の通路とす、市街は城内に在りて街衢正しく、大厦高樓軒を竝べて、商業盛んに土地大に賑へり。

城内にも亦た市街あり、其西門外に在るものは、艇舦にして北門外に在るものは太稻埕なり。

基隆 は本島の北端に在る良港にして、船舶の出入常に絶へず、本洲より來る船は第一に本港に入る。

淡水港 は臺北の西に在る開港場にして、淡水河の河口なり、臺北に亞ぎて繁華なる地にして、船舶の出入常に絶へず、貨物の集散基隆より其額多しと云ふ。

宜蘭 は基隆の東方に在りて、此地蕃地に近きを以て、未だ著しき發達を認めず、人口五千を算すと雖ども、土人多くして土地未だ開けず。

新竹 は臺北の南方二十里の處に在る小都會にして、人口五千を算し、停車場ありて市街稍や賑ふ。

臺中 は本島の中央に位し、鹿港は其西に在る良港なり、鹿港の東に在るは彰化にして、大肚溪其北を流る、其地方は沃野十數里に連りて農業に最も適するを以て、米穀の産額殊に多く土地従つて

賑へり。

嘉義 は台中の南方平野の中央に在る都會にして、人口一万五千を算し、南より北に連なる十數里の平野は土地大に肥へ、果實及び日用の食料物を夥しく産す、嘉義の東方に聳ゆるは新高山にして、其中間に在る樟腦の市場は即ち雲林なり

台南 は本島の南部に在る大都會にして、本島第二の繁華なる所とす、人口五万を算し、混成第三旅團司令部の所在地にして、市街は繞らすに石壁を以てし、其れに入個の門を開きて、内外の交通を取る、台灣の西方一里の海岸に在るは安平港にて開港場なり。

鳳山 は台南の南十四里の處に在る小都會にして、砂糖の産地なり、其西方の海岸に在るは打狗港にして、開港場なり、本島の南部鐵道は打狗に終る。

恒春 は本島南端の小都會にして、其附近は小丘多く平地少なく、住民は茶、棉花、及び雜穀の栽培を營む、其南に在る大灣は即ち南灣にして本島最南の其



港なり。

澎湖島は 大小數多の島嶼より成る群島にして、臺灣本島と支那大陸の中間にあり、澎湖島、白沙島、漁翁島の三大島、互ひに相抱きて其中に灣を作る。媽宮港は此の灣内に在り、此の島は飲料水に乏しく、土質は赤赭にして、樹木の發生を見ず、澎湖島の東北部に羅列する重なる島は、紅頭嶼、火燒嶼、龜山島等にして多くは無人島なり。馬公(媽宮港)には海軍要港部及び要塞ありて我國西邊を防備す。

赤赭ハ燒  
ト云フ

臺灣島の物産 本島は氣候炎熱にして、地肥へたるを以て、諸種の産物極めて多し、其重なる物を舉れば、砂糖、樟腦、茶、石炭、米、藍、麻、紙、麥、煙草、藤蓐、甘蔗等にして、山中よりは種々の木材、硫黃、銅、石腦油、金、銀、寶石を産し、沿海よりは魚類及び塩を産出す。

◎練習問題

○臺灣島の地勢を問ふ

○台中の概況を問ふ

○台北の状況を問ふ

○台湾島の良港を挙げて

○台湾島の最高山は何山なるか并に其高さを問ふ

○台湾島の物産を列挙せよ

### 第十一章 樺太島

#### ◎沿革

樺太島は、舊時亞細亞大陸の一部分と思はれしが、文化六年、間宮林蔵の踏査により、始めて其半島にあらざることを發見せり。其後、樺太島の所屬につき、ロシアと紛議起り、一時、北緯五十度線により二分して、分領せんと提議せしむ。協議纏らざりしが、明治八年、千島の得撫以北を我所屬とし、樺太をロシアに譲與せり。爾來、樺太は、ロシア所屬なりしが、明治三十七八年戰役（日露戰爭）の結果により北緯五十度線以南は、再び、我所屬に歸せり。

#### ◎位置

樺太島は、オホーツク海上に據る大島にして、南北に長く、東西に短し。而して東はオホーツク海を隔て、遙かに我千島列島及ロシア領カムチャツカ半

樺太島 大嶺ノ全半  
大嶺ノ全半  
島大嶺ノ全半  
モラントガ  
モラントガ  
徳川幕府  
林蔵代官  
人初メナル

島と相對し、北はオホーツク海に面し、西は、間宮海峡及日本海によりて、ロシア領沿海州と相隣りし、南は、宗谷海峡によりて、北海道の宗谷港を望む。

#### ◎面積

樺太島は、南北六百七十哩、東西三十哩乃至百五十哩にして、其全面積約二萬四千五百六十方哩あり。

#### ◎區劃

樺太島は、便宜上之を三州に分つ。即ち、本島の北西部方面をアレキサンドロスキー州と稱し、北東部方面をツイモフスキー州と稱し、南部の一圓をコルサコフスキー州と稱す。而して、我新領土樺太は、南部一圓のコルサコフスキー州とアレキサンドロフスキー州の南部地方とツイモフスキー州の南部地方とす。

同地ヲ探  
險ノ以テ  
其島嶼ヲ  
確メトナ  
シメテ  
間宮海峽  
ノ名ヲ起  
ス

我が領土  
ノ面積約  
二萬四千  
五百六十  
方哩あり

南半部  
ノ行政  
上ニテ  
三ツテ  
ナス  
大泊原  
ノ地ナ

◎住民

樺太島の住民は、其數凡三萬五千内外にして、其種族は、日本人、ロシア人、其他は土人なり。而して、土人は、アイヌ人最も多く、オロチヨン、ツングース、ギリヤーク人等とす。アイヌ人は約二千五百、ギリヤーク人は千人内外にして、其他の土人は僅少なりとす。

樺太島の南部が我領土となるや本邦人の移住次第に多く、ロシア人は、明治三十七八年戰役に於て、我兵占領の際、大抵歸嶼して、今は、其少數を留むるのみ。而して本島は、南部地方に於て、水産の利最も多く、且つ土地も開け、完全なる道路の敷設されたるものあるを以て、従つて、住民も多し。然れども、中央部より以北は道路なく土地開通せず、且つ沿岸の漁利も南部に比すれば、大に少きを以て、北部地方は殆んど、無人の狀態にありといふ。

◎地勢

二條の蜿蜒たる山脈北より南に延びて、地勢を東西に兩斷す。面して、其山脈の東西兩海岸は概して平地なれども、其他は一体に高地にして、全島殆んど山岳を以て充たさるれば、平地少し。

◎山脈

樺太島の山脈は、二箇の並行山脈をなし、北方より南方に走りて、本島を縦斷す。其中の最も高さものは五千尺を算し、低きものは二千尺を算すといふ。其中央を走るものを樺太山系といひ、相并んで東方にある支脈を東樺太山脈といふ。

樺太山系は、ロシア領より來り、島の西部中央を走りて西能登呂岬に盡く。其山脈中の最も高さものは、近藤半島(舊名ノトロ半島)に白圭山あり。其北にスバン山嶺え、其又北にあるものはコタンドン山にして、其北方に峙つものをセリナイ嶺山とす。

南半部  
我が島  
土人  
分日大  
ニシテ  
總人口  
餘萬人  
下三土  
ノ合ス  
チノ種  
モハス  
アカ三  
ノ千除

東樺太山脈も亦、ロシア領より來り本島の東部を走りて北知床岬に没す。南方に峙つチアラ山は此山脈中の最も高さものとす。

ロシア領の北方に峙つエスベン山は最も高さものとす。

而して、樺太山系の南方に延びて、オホーツク海に没するものは、更に、北海道本島の北端に現はれて北海道山脈となる。

### ◎ 平 野

樺太島は、全島殆んど山脈を以て覆はれ、到る所山岳ならざるはなし。故に、樺太島には著しき平野として見るべきなきも、アレキサンドロフスキ州の北部海岸には、平地あり、又、ツイモフスキ州の海部海岸には稍々大なる平地あり。其他は、皆な、山岳重疊して、其間は、樺太の名物とも稱すべき密林に

して、密林中には無数の河流東西に流れ、一たび山間に入れば霞尙は暗く日光を見る能はざる程なりといふ。

### ◎ 河 流

樺太島の河流は方向一定せず、山脈の間を流るゝを以て、或は東西に流るゝものもあれば、又、南北に流るゝものもあり。而して、本島中の最大なるものは北樺太山系中より發し、行々東西に支流を出して、一は北方に流れて、ツイモフスキ州の東海岸に至りて、オホーツク海に入るものにして、之をツイミ河と稱す、一は同じく北樺太山系の中央に發し南流して、ツイモフスキ州を經、多摩加灣に至りオホーツク海に入る。之を幌内河と稱す。此他大小の河流は、各州各所にありて、其西に流るゝものは、間宮海峡に入り、東に流るゝものはオホーツク海に入る。

本島の氣候極めて寒冷なるを以て、大小の河流數多ありと雖も、冬期は皆氷結

幌内河ハ  
本島第一  
ニシテ長  
サ約六十  
里アリ下  
流ハ三十  
里ハ舟ヲ  
楫ルベキ  
即チラッ  
クノ便ナ  
リ我土ナ  
リ領土ス

して舟楫に便ならず。夏期に至れば、雨水氾濫して、道路を失ふに至るが故に灌漑の便甚だしく、且つ平地少きを以て、其流れ凡て急なり。

◎湖 沼

湖沼は各州に散在す。其中の大なるものは、多來加灣頭にある多來加湖とす。其他亞庭頭にある富内湖等も亦、大にして、西北岸にあるライチン湖も亦大なり。

◎半島及び岬

東方に北知床半島、南方に斗出せるものを中知床半島及び西能登呂半島とし、北方にあつたものをエリサベス半島とす。

多來加湖  
ハ本島第  
一ニシテ  
周囲十八  
里

岬には、東方にクローエラ岬、北知床半島の南端に斗出せる北知床岬、南方には中知床半島の南端に中知床岬及び西能登呂半島の南端に西能登呂岬あり。西方にトガリ岬、北方にマリーヤ岬及びエリサベス岬あり。

◎港 灣

本島に於ける港灣の重なるものを擧ぐれば次の如し。

東海岸にあるもの

多來加灣は、舊名をテルペーニヤ灣といひ、東北隅にありて、北知床半島により構成せらるゝ大灣なり。灣内水深くして、巨艦大船の出入に便なりと雖も、其風波を避くる點に至りては便ならず。

ナベリスキー灣は、ツイモフスキー州の中部にあり。其北にヌイ灣あり。北知

床半島の東岸にブラット灣あり。コルサコフスキー州の東南岸にナイプチ港あり。而して此等の三灣及び港は、只、時に船舶の風雨を避くるために、寄港するに止まるを以て、其名も亦、従つて、著しからず。

南海岸に属するもの

亞庭見灣は一名東伏見灣といひ、南方に斗出せる中知床半島と西能登呂半島にて包まれ大泊支廳區内南方にある大灣なり。東西北の三方は山脈を以て圍まれ灣内水深く、且つ、別けて廣きを以て、大艦巨船の碇泊出入に宜しく、北海道の宗谷港より、僅かに五十裡にして、灣内の對島岬に達するを以て、本島に於ける第一の良港灣とす。

千歳灣は、舊名をロンセイ灣といひ、東伏見灣の中央に斗出せる對島岬の西方にあり、灣内には、常に、軍艦船舶の出入多く且つ碇泊せり。

西海岸に属するもの

西海岸には、アレキサンドロフスキー港あり其北方にウヤフト灣ツイク灣及び

サワリン灣あり。

アレキサンドロフスキー港は、アレキサンドロフスキー州の西南岸にある良港にして露領沿海州へ渡る要津なれば、大船巨艦の出入は固より、本島第一の繁華なる港なりとす。

ウヤフト灣、ツイク灣及サハリン灣は、船舶の出入常に少きを以て、灣内従つて淋し。

北海岸に属するもの

北海岸に属するものは、マリーリヤ岬とエリサベス岬とによりて抱まれたる北灣とすアレキサンドロフスキー州の最北端にある大灣なれども、冬期は結氷甚だしきを以て、船舶の出入に便ならず、従つて、灣内常に寂寞を極む。

◎島嶼

樺太本島に附屬せる島嶼の見るべきものは、唯だ、二つあるのみにして、一は、七

多來加灣口の東部にある海豹島(舊名ロツベン島)にして、一は、中知床半島の西方に横はれる海馬島(舊名モネロン島)にして、此他に著しき島嶼更になし。海豹島の東方海中に大岩石あり。之を海豹岩(舊名シブチー岩)といふ。海馬島は、舊名をモネロン島といひ、臘肭獸の生産地にして、毎年六百頭を撲殺すといふ。

### ◎ 氣 候

本島は、日本海の寒流とオホーツク海の寒流とを以て、全島の周圍を包む。且つ西比利亚大陸の寒風を受くること多きが上に全島殆んど山岳を以て充たさるゝを以て氣候極めて寒く加ふるに土地非常に濕氣を帶ふるにより雲霧常に昇りて爲めに日光を見る能はざること多きのみならず、降雪極めて多くして、東部海岸は、西部海岸に比して、殊に甚し。然れども、一般に、雪は深からず、又た寒氣の度も南樺太より北樺太の方遙に強し。氣温は、本島中央の西海岸にあるアレキサン

即チ緯度  
ニ於テハ  
北極道ト  
大ニナキ  
モ爾共  
ニ寒流  
ガ流レ  
ガ放ナリ

ドロフスキーに於て、七月中、平均華氏の六十三度にして、一月中の如きは、華氏零下一度半なりといふ。而して、亞庭灣の氷結は毎年十一月より翌年四月に及び間宮海峡は、毎年十一月に至れば氷結して、船舶を通せず、翌年五月に至りて、始めて解氷するを以て、結氷中には、間宮海峡上を人馬自由に往來して、アレキサンドロフスキー港と對岸の沿海州カストリ灣と交通を營むといふ。

### ◎ 物 産

本島は、陸には、密林を以て掩はれ、山岳よりは、鑛物を出し、海産物は、世界第一とするを以て、其詳細を次に示さん。

#### 林業及農業

全島山岳を以て充たさるゝが故に、内地は、殆んど、到る所森林ならざるはなし。人、一度大森林中に迷ひ入れば、時に、二三日を経過するも森林外へ出づる能はずといふ。以て、其大なるを知るべし。今其樹木の種類を列擧すれば、

檜、白楊、柏、樺、秦皮、楓、柳、榛の樹、樅、落葉松

等にして、林業甚だ有望なりとす。又、本島に生ずる藪は、實に見事にして、其高さ丈餘に及び、其葉を被れば如何なる大雨遇ふも決して濡ふることなしといふ。海岸には、小麦、燕麥、甘藍、馬鈴薯等を産すれども、本島の地質五穀を作るに適せざれば、殆んど耕作の見込なしといふ。

鑛業

本島は、又、鑛物に富み、金、銀、銅、鐵、砂金、石膏、瑪瑙、硫黄、石炭等を産出すれども、其採掘開けざるを以て、鑛業も亦有望ならずや

獸獵

本島に産する獸類の重なるものを列擧すれば、

熊、狐、黒貂、山羊、馴鹿、虎、熊、牛、馬、豚、海驢、海豹、臘肭獸

等にして、熊、狐、黒貂、虎、熊、の如き猛獸は大森林中に棲息せり。又海驢、海豹、臘肭獸の如きは海上に棲息せり。土人は之れ等を捕獲して、其毛皮を取り而して、日用品に交換すといふ。其他、牧畜の業も有望なりといふ。

水産業

本島の沿岸、殊に南部沿岸に産する魚類及海獸其他は、何れも、寒帯的の種類にして、其多きこと世界第一と稱せらる。今其種類を列擧すれば、

鯨、鱈、鮭、鱒、鱈、昆布、海獺、海豹、臘肭獸、水獺、海參、鰈

等にして、就中、鯨、鱈、鮭、鱒、鱈、昆布等の種類に至りては、其饒多なること喩ふるに語なく、實に無盡藏と稱するも不可なく、現今にては、鯨、鱈、鮭、を主として捕獲し、其他は、手を下すに暇まなく、殆んど、之を顧みざるが如き状態にありといふ。されば、水産業實に有望なり。

要するに、本島に於ける陸海の天産物は、殆んど、無盡藏なるを以て、今や、此の無盡藏なる天産物を有する本島の南部一圓の地は、我領土に歸せしを以て、若し、夫れ、未開の大森林の經營に従事し、金、銀、銅、鐵、石炭等の採掘を開き、一方水産業をして、益々盛大ならしめば、其利幾何ぞや、實に、樺太島は、世界の大富





に東方の北知床岬と相對す。而して名寄には豊原支廳あり。

本道は、名寄村より海岸を離れて北に走り、北樺太山脈の中間を傳ふて、オノトル村に至る。

オノトル村は、北緯五十度の處にある名邑にして、實に樺太の中央に位す。

故にオノトル村は、ツイモフスキー州の北部にありて、其東方に流るゝは、ボロナイ河なり。

夫れより、本道は北に走りて、ルイコフスコエに達す。又、西海岸にある名邑は、眞岡南方にあり。其北にあるは、クシユナイ及びエストルとす。

眞岡は、西南海岸にある名邑にして、廣大なる開墾地を控へ、邦人の來住するもの多く眞岡支廳所在地たり。

エストルも亦、コルサコフスキー州の西北海岸にある名邑にして、即ち、エストル河の河口なり。

ルイコフスコエ府は、ツイモフスキー州の首府にして、州の中部の西方に位し、北樺太大山脈の東麓にありて、ツイミ河市街の東方を流る。市街は方一里半の平原中にありて、四方は山岳を以て圍まる。戸數六百、人口三千を有す。官舎、郵便電信局、警察署、氣象臺、陸軍病院、郡立病院、監獄等ありて、市街は相當に賑へり。本道は、南オノトルより來り、此に至つて二つに分岐し、其北せるものは、ツイミ河の畔なるアドツイミ村に至つて終り、其より以北は道路なく山脈相重りて、住民更になし。ルイコフスコエより西に出でたる本道は、アルウダン村を経て、西海岸のアルコフ村に達し、夫れより、南へ海岸に沿ふて戻れば、即ち有名なるアレキサンドロフスキー港に至る。

アレキサンドロフスキー港は、アレキサンドロフスキー州の西海岸にある首府にして、前は、間宮海峡に臨み、同海峡を隔て、遙かに、西比利亞大陸の沿海州のカストス灣と相對し、此間僅かに、六十裡に過ぎず。アレキサンドロフスキー府は、實に、樺太全島の大首府にして、アレキサンドロフスキー灣にあり。戸數二千餘、

人口七千餘を算し、殊に港内水深く、大船巨艦の出入碇泊に便なるのみならず、樺太より大陸に渡るの要津なれば、市街大に賑ひ、貨物の集散従つて多く、商業も亦、大に賑ふ、アレキサンドロフスキーよりアルコフに至る十二里なりといふ。本府には海底電信局あり。

アレキサンドロフスキー府の北方三里の處にあるは、アルコフ村にして、アルコフは此附近の名邑なれども、戸數僅かに五十餘、人口三百を有するのみにして、村民は後の山脈の麓なる高地に於て、牧畜を業とし、盛んに、牛、馬、豚、鶏等を飼ひ又た、畑には、麥、馬鈴薯を作りて、食用に供せりといふ。

アルコフの北方八里にあるは、ムガデ村にして、夫れより、本道は、海岸に沿つて、ライン及ボゴビ村に至りて止む。夫れより、北は道路なく、山を越へ川を渡つて、サハリン灣に沿ひ、エリサベス半島に至るのみ。

又、アレキサンドロフスキー府より、南に通ずる道路あり。即ち、ドツエを経て、海岸を離れ、ニコライスクを経て、又た、海岸に至り、ウヌチアグキオに達し、夫

れより、又た、海岸を離れて南に走り、山脈を越へて、ツイモフスキー州のオフトル村に至りて止む。

又た、アレキサンドロフスキー州と、コルサコフスキー州の境に有名なる大鑛山あり。即ち、セリナイ鑛山にして、セリナイ村は其麓の海岸にあり。

アレキサンドロフスキー州の最北端は、即ち、エリサベス半島にして、其北端はエリサベス岬とマリーヤ岬とによりて、北海を形成し、港頭にコイブイグルオと稱する小村落あり。此處より、オホーツク海を隔て、カムチャツカ半島の南端と遙に相對す。

ニコライスク村は、亦、一小部落にして、露軍の兵營を置きたる所なり。

### ◎ 各地の里程及電線

南部樺太の良港たる大泊より各地へ至る海上の里程は左の如し。

北海道宗谷港へ 二百九十四  
 同 小樽港へ 五十哩  
 同 函館港へ 百六十哩  
 露 領浦鹽港へ 二百四十哩  
 樺太西海岸のドウエ港へ 五百五十哩  
 アレキサンドロフスキー港へ 二百六十哩  
 アレキサンドロフスキー港より其對岸なる沿海州のアレキサンドロフスキ  
 ーまで 二百八十哩  
 六十哩  
 樺太より大陸に通ずる海底電線はアレキサンドロフスキーより間宮海峡の海底を通  
 じてカストリ湾に至る。

◎ 練習問題

○ 樺太島の沿革を語れ。

- 樺太島の境界を示せ。
- 樺太島の面積を示せ。
- 樺太島の區劃及び我領土を示せ。
- 樺太島の住民につき知る處を略記せよ。
- 樺太島の地勢如何。
- 樺太島の山脈の名を挙げよ。
- 樺太島の最大河を示せ。
- 樺太島の最大湖を示せ。
- 樺太島の新領土にある半島及岬を列舉せよ。
- 樺太島の新領土にある港灣を列舉せよ。
- 海馬島につき知る所を示せ。
- 樺太島の氣候につき知る所を示せ。
- 樺太島の主要なる海産物如何。

● 樺太島

- 樺太島の交通につき知る所を示せ。
- 樺太島の新領土に於ける民政署及び民政支署の所在地を示せ。
- 九春古丹につき知る所を示せ。
- ウラジミロフカ及びマウカにつき知る所を示せ。

## 第十二章 人文地理

### ◎住民

近時、我國の領土漸次膨脹につれ、住民の種族も従つて、増加したり。然れども、大部分は、大和民族にして、尙ほ、國家の中堅となりて、國運を進め、アイヌ種、支那種、マライ種等を指導して、皇恩に治せしめ、漸次、我に同化せしむ。面積に比すれば、人口甚だ多くして、五千萬餘に達し、其増殖も亦、頗る迅速にして、最近、一ケ年の増加は、七十一萬餘に及べり。而して、臺灣と樺太とを除きて、内地に住むものは、實に、四千六百八十萬なれば、一方里につき約千九百人の割合にし

て、其稠密の度の第一に位するは關東にして、一方里につき約四千五百餘人とす。現今、海外に在留する本邦人は日一々に多く、總計約十五萬五千餘人にして、最も多きは、韓國にして約七萬人餘にして、布哇に六萬九千人餘、次は北米合衆國にして、次は清國なりとす。

### ◎風俗

我國固有の衣食住は、すべて、國土自然の勢によれるものとす。

衣服は、絹、木綿を用ひ、食物としては、米其他の穀類を主食とし、家屋は概して木造にして、空氣の流通に適せり。

之を要するに、我國風は、古來より質朴簡易なりしが、近時列國と交際せしより、歐風の流行となり、生活の程度も高まり、多少の變化を來せり。されども、忠君愛國の念、優美進取の氣質は、益旺盛にして、列國民の仰ぎ視る所なり。

### ◎宗教

我國宗教の信仰は自由にして、其専ら行はるゝものは、神道、佛教及び基督教なり。神道は、我國固有の道義に基きて起れるものにして、神道、大社教、黒住教、神理教等の十數派に別れたり。

佛教は、其傳來遠くして、我國の風俗、文化、其他の事物に大影響を與へたり。宗派は、四十餘に分れ、寺院の總數七萬二千餘ありて、眞宗最も盛んなりといふ。

基督教も、漸次國內に傳播し、最も盛んなるは新教にして、其他舊教、希臘教等も多少行はる。

◎ 教 育

我國は、古來より、皇祖皇宗の遺訓に遵ひ、忠孝を以て教育の基礎と定めたり。近時、初等教育殊に普及し、全國小學校の總數二萬七千餘に上り、不就學者大に減少せり。中等教育も甚盛んにして、各府縣に數多の中學校高等女學校等あり。高等教育も、漸次、隆盛に向ひ、帝國大學、高等學校、高等師範學校等あり。特殊教育には

軍人養成に、陸軍大學校、陸軍士官學校、陸軍砲工學校、海軍大學校、海軍兵學校機關學校等あり。實業教育には、各府縣に、商業、工業、農業の各種學校の設けあるの外、高等商業學校、高等工業學校、高等工藝學校等あり。其他、醫學專門學校美術學校、音樂學校、商船學校等あり。今や我國は、正に東洋文運の中心として、外國より來學するもの多し。今、次に、各種學校の概要を示さん。

	官立	公立	私立	合計
小學校	二	二六八二七	三二五	二七一五四
盲啞學校	一	一	一七	一九
師範學校	五八			五八
高等師範學校	三			三
中學校	一	二二二	三六	二五八
高等女學校	一	七二	七	八〇
高等學校	八			八

帝國大學	三	八	一一
專門學校	八	四六	五八
實業學校	七	七九五	八五三
各種學校	四二三	一二三四	一六五七

教育の進歩に伴ひ、圖書、新聞、雜誌の發兌愈々増加し、其數幾萬の多きに達す。又一方には、圖書館、博物館、動植物園等の設けありて、教育の補助をなすこと尠ならず。

◎ 農 産

古來より我國は「瑞穂の國」と稱し、農を以て、國の基礎となしたるを以て、最も穀類に富めり。其最も多額を産するものは米にして、全國內地の田畑五百二十餘萬町歩の内平年産額四千二百萬石に上り、攝津の平原、關東及尾濃の平野、肥筑の平原等は最も豊沃を極め尙北陸道の越前越後の米は其名高く、最多額の輸出ありて有名

なるは新潟縣、兵庫縣なり。別に臺灣は約五百萬石を産すといふ。次は麥にして、其の産出は平年作一千八百萬石に達し、埼玉縣、茨城縣は第一なり。又近年蠶業大に發達し、繭の産額は平均、一年二百八十萬石に上り、内長野縣の四十餘萬石、群馬縣の二十二萬石餘、埼玉縣の二十萬石等は最も隆盛を極め、茶業も亦盛にして年額六百四十萬貫を出し、其の内静岡縣の二百萬貫、三重縣の四十九萬貫、京都府の四十二萬貫有名なり（彼の世界に名高き山城宇治茶は其の風味優に香しく海外の内外に轟けり）此生糸、茶の二品は海外輸出品の最重要なるものにして我が國産の首に居れり。甘蔗は七億五千萬貫、馬鈴薯は七千百萬貫の巨額に上り、其他麻、煙草、砂糖の産額も亦少からず、聲名の高きは紀伊、出雲の密柑、甲斐の葡萄、等は近年外國産を壓倒せんとす。

◎ 畜 産

我國の氣候は、羊を除くの外、總ての牧畜に適すれども未だ以て盛なりと云ふべからず。

らず、然れ共近時肉食論盛んに且軍備の擴張と皮革の需用増加したるに依りて、大に其業を奨励したる爲め漸次隆盛に向ひつゝあり。畜産中最重要なるものは牛にして、近く外國種を輸入して、頻に改良を計れるが未だこれを列國に比すれば、極めて少額にして、全國牛の数は約百三十萬頭、馬は約百五十萬頭のみ、牧場として適當なるは下總羽志野原、香取牧、伯耆大山ヶ原、出雲石見の三瓶山裾野、陸一本木原等にして、就中、磐城及奥羽の馬、三備及長門、周防、但馬の牛は有名なり。而して、全國牛の屠殺数は年々多數に上れるが、最近の調査は二十五萬餘頭に達したりと。

◎ 鑛 産

鑛物の重なるは、石炭、銅、金、銀、鐵等なり。石炭は年産額一千餘萬噸に上り、九州の東北部及北海道の西南部に埋藏するもの尙多し。銅は、年額五千五百萬斤に達して、多く海外へ輸出す。下野の足尾、伊豫の別子に重なる産地にして其の埋藏

量殆んど計り難しといふ。金は、八百三十五貫にして、鹿兒島縣の三百貫、新潟縣の百六十貫、北海道の百十貫を多産地とし、佐渡の金山、生野の銀山等は其名世に高し。銀は年額一萬五千六百貫を産して、但馬の生野、羽後の院内、陸中の小阪、石見の銀山等を最とす、鐵は從來産額多からずといふにあらざれども、其の採掘方法の幼稚なりしたため未だ世に知られず、伯耆、出雲、石見、安藝、備後、備中美作の一帶及び陸前、陸中等は昔より有名なるが、就中、東北地方の鐵鑛は、實に有望にして、政府は既に九州八幡に製鐵所を設け、且吳には製鋼所を設置し、尙近く北海道室蘭にも一大製鐵所開始せられんとす。其他硫黃、安質母尼の産額は甚多くして、世界に於ける多産地たり。此外各種の石材、石油、陶土等の産あり。

◎ 森 林

森林の利は、獨り木材、薪炭等の材料たるのみならず、國土の風致を添へ、氣候を調和し、水源を涵養する等の副効あり。我國は幸ひにこれ等の山岳多ければ自然森



林に富み、特に東北地方、木曾、吉野、紀伊等の大森林は未だ遠く斧鉞を入れられざるもの多く従て良材の數圖り知るべからず、加ふるに臺灣、樺太の大森林は其名世に高し。全國內地の林野を別て國有林(千二百五十三萬町歩)、民有林(七百五十二萬町歩)、御料林(二百十萬町歩)のみとす。

### ◎ 水 産

我國は、寒暖の二流四面を圍むを以て、極めて魚族に富めり。特に北海道及樺太の沿海は世界三大漁場の一なるに、尙韓國、露領沿海州の海岸の豊富なるもの、又我漁獲區域に屬したれば漁領面積は、耕地面積より遙に廣大なり。されば、水産業は實に我國民の一大生業にして且清、韓等の魚類需用國とを近く控へたる事なれば、將來益有望を極む。魚類の外、尙、昆布、石花菜、海苔、鹽等も亦多し。中に就て千島近海の臘虎、海豹及臘肭臍、北海道沿岸の鯨、鮭、鱒、鱈、鰻、烏賊、鮑、昆布、石花菜等は年産額優に一千餘萬圓に上り、臺灣西南沿海の鱈、鯨、鰻、鮑、鱒、

等と相俟ちて實に我國南北の水産二大富源たり。此他紀伊海及琉球附近より五島近海に至る鯨、土佐海の鯨、珊瑚、眞珠、伊勢の鰻、興津の鯛、東京灣の海苔、安藝の牡蠣、播磨三備沿海の鹽等は最も名高し。

### ◎ 工 業

我國は工業發達の要素に富む。即ち石炭産出の多き、水力電氣に便なる、手工に巧妙なる美術心に富める、勞働賃金の廉なる皆備はらざるはなければ、既に東洋美術工藝國の名を得たり。各種の工業中に於て最盛なるは、綿絲紡績にして、最近の産額は三千八百萬貫に上りて、大阪府、兵庫縣地方最盛なり。蠶糸はこれに亞ぎ、年額二百六十萬貫に上り、長野、群馬の兩縣を第一とす。機業も亦甚盛にして、絹織綿織、絹綿交織、麻織等の總額は一億三千八百萬圓に上れるが、絹織は京都の西陣越前の福井、下野の伊勢崎、桐生、武藏の八王寺地方を第一とし、綿織は名古屋、大阪、和歌山、福岡を中心とす。而して、麻織は福井、新潟の兩縣を最も盛なりと

す。此紡績、蠶糸、織物業は、實に我國の三大工業たり。此外製紙、摺附木、陶磁器、漆器等は何れも五百萬圓以上を産し、就中陶器、漆器は古來最有名にして美術工藝の真隨たり。伊勢の萬古燒、尾張の瀬戸及七寶燒、加賀の丸谷燒、京都燒、伊萬里燒、其他出雲、北陸地方及薩摩の陶器及び春慶塗等は既に聲名あり。讓造物には、清酒、醬油を最とするも、近來麥酒、葡萄酒の讓造盛を極め遠く海外に輸出して外國産と覇を争へり。酒類の産額は三百五十萬石に達し、内兵庫縣の五十二萬石福岡縣の十九萬石、京都府、大阪府、愛知縣の各十二萬石最多し。此外臺灣の砂糖産額九千三百萬斤、樟腦産額三百六十萬斤、阿片烟膏四萬貫ありて尙益隆盛ならんとする餘地充分なり。要するに我國の將來は工業に適する諸資格を利用して、世界の一大工業國たることを期せざへんからず。

◎ 商 業

我國の昔は農業を以て立國の基本としたれども、今は商工業をも加へて尙一層獎勵

の手段を講じつゝあれば、商勢はさらぬだに、活潑を極め、其の外國貿易は殆ど列國を相手となせり。内地商業の盛なるは、東京、大阪にして、之を全國の二大商業地とし、名古屋、仙臺、廣島、福岡、熊本等之に次ぐ、外國貿易場は、維新の初め五港と大阪とのみなりしが、今は左の三十七港あり。

武藏國	横濱	攝津國	神戸	攝津國	大阪
肥前國	長崎	越後國	新潟	渡島國	函館
駿河國	清水	尾張國	武豊	伊勢國	四日市
備後國	糸崎	長門國	下ノ関	豊前國	門司
筑前國	若松	筑前國	博多	肥前國	唐津
肥前國	住ノ江	肥前國	口ノ津	肥後國	三角
對馬國	嚴原	對馬國	佐須原	對馬國	鹿見
琉球	那覇	石見國	濱田	伯耆國	境
丹後國	宮津	越前國	敦賀	能登國	七尾

越中國	伏木	陸奥國	青森	後志國	小樽
膽振國	室蘭	釧路國	釧路	尾張國	名古屋
臺灣	基隆	臺灣	淡水	同	安平
同	打狗				

而して、左の臺灣各港は當分支那形船に限れる貿易場なり。

舊港	後瀧	塗葛窟	鹿港	下湖港
東石港	東港	媽宮	蘇澳	

貿易の最盛なるは、横濱、神戸、大阪の三港にして、最近輸出入總額は實に八億四千二百餘萬圓に上り、内輸出は四億二千三百餘萬圓、輸入は四億千八百餘萬圓なり。重要輸出入品及價格は、輸出に於て、生糸の九千四百三十三萬圓、羽二重の三千七百五十四萬圓、綿織糸の二千九百六十一萬圓、石炭の千四百八十八萬圓、製茶の千二百八十三萬圓、熟銅の一千二百七十七萬圓等、輸入に於て、棉花の七千三百四十萬圓、米の五千九百七十九萬圓、鐵及鋼の二千五百十萬圓、砂糖の二千三百萬圓、毛絲及毛

布の千九百三十萬圓、石油の千八百二十萬圓、機械類の千百六十萬圓等なり。其通商の最盛なるは、亞米利加合衆國にして、次は清國、英吉利、印度、香港、佛蘭西、獨逸等なり。即ち合衆國は第一の華客にして、我よりは製茶、生糸を輸出し、彼れより石油、砂糖を輸入す。而して、全國の金融を調製する爲めに日本銀行あり貿易の機關としては横濱正金銀行あり。又日本勸業銀行、興業銀行、及び各府縣に農工銀行ありて殖産興行に力を盡し、臺灣には臺灣銀行あり。北海道には拓殖銀行あり。滿州には正金銀行支店を各地に設け、韓國には第一銀行支店を京城に置き更に各道に其の支店を設置して、各金融の緩和を計る。其他全國の大小各私立銀行は數ふるに違めらず、その總資本額は優に四億圓を超過するに至れりと。尙各地方都市には商業會議所を設けありて商業運用の機關に供せらる。

### ◎ 交通

交通の便否は直ちに國の文野に關す。我國今日の交通機關は、歐洲列國に比するべ

からずと雖も、尙東洋諸國に卓越し居れり。即ち、道路は國、縣、里道に分れて全國各地に到らざる所なく皆人馬の交通自由なり。鐵道は明治五年初めて、東京、横濱間に敷設せられたるが今や各國の各要所に通じて、其延長五千哩に達し、尙工事中の線路多し。海運事業は政府の奨励法と日露戦争の結果により、急激に船舶の噸數を増加し、今や汽船百萬噸に達し、沿海の諸港海もとより、外は支那、朝鮮の各港より歐米諸港に通せり。其重なるは日本郵船會社、大阪商船會社、東洋汽船會社等とす。郵便は、明治四年の創設以來、如何なる僻地と雖も、通信の通せざることなく、清、韓の極要なる地まで、我郵便局の設ありて、一ヶ年の配達總數十一億通に上れり。電信は明治二年の創設以來既に全國の重なる都邑を通じ、線路六千七百里に達し、尙各島嶼及び諸外國との海底電線すら今は蛛の巢の如くに開通せり。電話も近時増加し、樞要の都會は、何れも市内縱横に線路を通じて、各戸を聯絡し、尙長距離電話ありて、居ながら數百里の外と談話することを得るに至れり。

### ◎ 政 治

我國の政治は、開闢以來萬世一系の天皇之れを統治し給ふ帝國にして、即ち君主國體に君主政治なりしを、明治二十二年憲法を發布して、政體を改め、立憲政體と定められたり。天皇は大權を總攬し給ひ、政治を立法、行政、司法の三部に分つ。立法部は帝國議會と稱し、貴族院、衆議院の兩院よりなる。行政部の最高は内閣といひ、國務大臣十名を以て組織し、内閣總理大臣其首班たり。内閣の下に、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省ありて各行政を分掌首管す。別に帝室の事を奉掌するを宮内省といひ、政治とは何等の關係を有せず。尙天皇の至高顧問府として樞密院あり。別に帝國の會計を監督する所を會計検査院といひ、行政に關する訴訟を審理する爲めには行政裁判所あり。共に内閣の圈外に立ち天皇に直隸す。地方行政は三府四十三縣に分ち、府縣の長官を知事と稱し、各府縣の下には、島、郡、市、町、村の區劃あり。島には島司を置き、郡には郡長を置く。而して、市町村には各公選せられたる市町村長あり。これを自治政治といふ。北海道には道廳ありて長官を置き、更に管内を三區十六支廳に分つ。臺灣には總督府あり

りて、總督あり行政と併せて陸海軍統括の大權をも有し、その下に陸海軍部及び民政長官ありて更に管内を十二廳に分ち各その地方を統轄す。樺太には樺太廳ありて長官之を統治し、部下の支廳と共に着々諸般の計畫中なり。尙關東州には關東都督府ありて、都督を置き、民政長官あり、更に民政署あり、大體は臺灣と施設を同じくせらる。司法部は裁判官を以て之を組織し、天皇に直屬す。最高裁判所を大審院と稱し、東京にありて全國の裁判を統一す。其下に控訴院七ヶ所(東京、名古屋、大阪、廣島、長崎、仙臺、函館)を置き、更に各府縣に地方裁判所一ヶ所及び區裁判所數多あり。臺灣、關東州には覆審法院地方法院を置き、朝鮮には控訴院、地方裁判所、區裁判所を置くこと内地に同じ而して、我が國の財政即ち會計は明治元年頃はその歳出入を通じ僅かに三千餘萬圓に過ぎざりしものが明治三十九年度決算を見るにその歳入に於て、經常、臨時兩部を合せ、二億九千四百十六萬三千九圓に對し、歳出に於ては經常、臨時を合せ三億五千三百十五萬七千二百四十一圓即ち歳出入を通じては實に六億四千七百三十二萬餘圓に達し、其の膨脹したる眞に驚くべし。尙、歳出か歳入に伴はざる場合には其

都度國債を起して歳出を補填するものにして、明治初年より現今に至る迄の起債總額は、二十九億九千七百二十萬六千六百四十圓に上り、其内償還したるは七億五千三百十萬三千三百三十四圓にして差引未済總額は、二十二億四千四百十萬五千三百六圓を現存す。(明治四十年十月末大藏省調査に依る)而して、此内内國債に屬するものは十億七千八百四十萬四千八十二圓にして、外國債に屬するもの、十一億六千五百七十七萬一千二百二十四圓あり。此外地方債は大阪、東京を最とし各府縣にあり。

## ◎ 國 防

我國防線は甚長くして、殆ど海防線なり。此の帝國の軍隊は、大元帥陛下の統率し給ふ所にして、分つて陸軍、海軍とし國民皆兵の制なり。兵役は分ちて常備、後備補充、國民兵役の四種とし、常備はまたこれを分つて、現役、豫備役の二とす。内陸軍は全國を十八師管に區別し、一師管に一師團の兵を備へ、又た別に近衛師團を置き全國より兵を徵發す。而して其一師管を分ちて、四聯隊區とす。但臺灣は以上

の管區外にして、混成二個旅團を置き、守備に任ず。又韓國と滿州には前記十八師團の内より交替法を以て各次駐屯守備す。又東京、廣島の二灣、佐世保、舞鶴、竹敷、馬公、函館、長崎、基隆の七港及由良、紀淡、藝豫、下ノ關の四海峽に要塞を設け、沖繩對馬には警備隊あり。而して、師團及旅團司令部所在地は左の如し。

師團	司令部所在地	旅團	司令部所在地
近衛師團	東京	近衛第一旅團	東京
		近衛第二旅團	東京
第一師團	東京	第一旅團	東京
第二師團	仙臺	第三旅團	仙臺
		第二十五旅團	仙臺
第三師團	名古屋	第五旅團	名古屋
		第三十旅團	名古屋

第四師團	大阪	第七旅團	大阪
		第三十二旅團	和歌山
第五師團	廣島	第九旅團	廣島
		第二十一旅團	山口
第六師團	熊本	第十一旅團	熊本
		第三十六旅團	鹿兒島
第七師團	旭川	第十三旅團	旭川
		第十四旅團	旭川
第八師團	弘前	第四旅團	弘前
		第十六旅團	秋田
第九師團	金澤	第六旅團	金澤
		第三十一旅團	富山
第十師團	姫路	第八旅團	姫路
		第二十旅團	福知山
第十一師團	(善通寺) 九龜	第十二旅團	(善通寺) 九龜
		第十旅團	徳島

大日本帝國陸軍各師團配備表 (明治四十年)

Main table listing military units from the 1st to 18th Divisions, including their names, types (e.g., Infantry, Cavalry, Artillery), and locations.

海軍は全国の海岸及海面を四海軍區に分ち、各海軍區に一軍港あり。各軍港に鎮守

Table listing the four naval regions (海軍區) and their respective garrisons (鎮守) with corresponding unit numbers.

第十八師團 久留米

第二十四旅團 久留米

第二十三旅團 久留米

海軍は全國の海岸及海面を四海軍區に分ち、各海軍區に一軍港あり。各軍港に鎮守

帝國陸軍各師團配備表 (明治四十年)

Table of Imperial Japanese Army divisions and regiments. Columns include Division Number (師團), Location (所在地), and Regimental Details (旅團). Divisions listed include 第一師團 (東京), 第二師團 (盛仙), 第三師團 (名古屋), 第四師團 (大阪), 第五師團 (島嶼), 第六師團 (本熊), 第七師團 (川旭), 第八師團 (米久留), 第九師團 (金澤), 第十師團 (山岡), 第十一師團 (伏見), 第十二師團 (豐橋), 第十三師團 (水戸), 第十四師團 (高田), 第十五師團 (小倉), 第十六師團 (通善寺), 第十七師團 (島), 第十八師團 (福地), 第十九師團 (富山), 第二十師團 (盛岡), 第二十一師團 (盛岡), 第二十二師團 (盛岡), 第二十三師團 (盛岡), 第二十四師團 (盛岡).



第一海軍區	第二海軍區	第三海軍區	第四海軍區	第五海軍區
第一海軍區 横須賀港 横須賀鎮守府 第一海軍區 横須賀鎮守府	第二海軍區 吳港 吳鎮守府 第二海軍區 吳鎮守府	第三海軍區 鎮守府 鎮守府	第四海軍區 鎮守府 鎮守府	第五海軍區 鎮守府 鎮守府

府ありて、其軍區を管轄し、数多の軍艦之に分属す。各鎮守府には海兵團ありて、軍艦乗組員屯在所とす。現今帝國軍艦の数は百十隻、五十萬噸餘に上り、薩摩、安藝、香取、鹿島、敷島、朝日、三笠、富士の外石見、丹後、肥前、周防の戦艦を始め筑波、生駒、鞍馬、伊吹、淺間、常盤、吾妻、八雲、出雲、勢手、日進、春日阿蘇の巡洋艦を重なるものとし、其他小巡洋艦、砲艦、水雷母艦、海防艦、通報艦、水雷艇ありて尙戦利の各艦及最近製造中のもの数多あり。海軍區、軍港、鎮守府所在地の管轄區表は左の如し。

- 區劃 軍港 鎮守府 管轄區域
- 第一海軍區 横須賀港 横須賀鎮守府
  - 第二海軍區 吳港 吳鎮守府

第三海軍區

佐世保港

佐世保鎮守府

筑前國遠賀宗像郡界より九州西海岸及同南海岸に沿ひ日向大隅國界に至るの海岸海面並に壱岐對馬沖繩諸島の海岸海面並に薩摩海峽湖島の海岸海面

第四海軍區

舞鶴港

舞鶴鎮守府

長門國大津豐浦郡界より本土西海岸に沿ひ羽後陸奥國界に至るの海岸海面及隱岐佐波の海岸海面

旅順鎮守府

關東州の海岸面一帯

尙馬公、竹敷、大湊には要港を設置す。

◎ 外 交

我國は、安政元年北米合衆國と和親條約を結びしを始とし、爾來諸外國と修好條約を訂結し、現今條約國の數は既に左の二十五國に及べり。

亞細亞洲

清、暹羅

歐羅巴洲

英吉利、佛蘭西、西班牙、葡萄牙、伊太利、瑞西、獨逸、白耳義、和蘭、丁抹、瑞典、諾威、希臘、澳大利、匈牙利、露西亞

亞米利加洲

亞米利加合衆國、墨西哥、秘露、伯刺西爾、智利、亞爾熊丁

亞弗利加洲

果剛獨立國

此等の諸國には公使を派遣して各公使館の設置あり、殊に其最關係の繁き英、佛、獨、合衆、露の五國には大使を派遣せり。今や、世界の強國英吉利と攻守同盟と結び別に佛蘭西、露西亞と各協約あり、韓を保護國として、彼地に統監府を置き以て内政を監する傍ら、同國の外交は舉て我國政府の掌る所となりし等、全く世界一等國の列に入るに至れり。

◎ 練習問題

- 學校の種類の中重なるもの五校を記せ
- 米麥の重なる産地三ヶ所を擧げ
- 吾國の農産物にして最も多きもの三個を記せ
- 茶の産額は如何

- 牛の産地四ヶ所を問ふ
- 森林に就て知る所を記せ
- 世界三大漁場の一は如何
- 鯨の漁獲地中有名なるは如何
- 銅の重なる産地を問ふ
- 鑛産物中の重要なもの四種を記せ
- 我國三大工業は如何
- 陶器の有名なる産地五ヶ所を問ふ
- 外國貿易港中十港を記せ
- 最近輸出入品に於ける重なるもの各三種を問ふ
- 貿易機關に供せらるべき銀行を問ふ
- 外國貿易港中臺灣に屬するものを舉げ
- 道路の種別は如何

- 政治の三部とは如何
- 控訴院所在地を問ふ
- 兵役の種類を舉げ
- 我國の要塞を問ふ
- 師團司令部所在地を舉げ
- 海軍の軍港及鎮守府を記せ
- 大使を派遣せる條約國の名を問ふ

# 朝鮮

## ◎位置

朝鮮は、舊韓國にして、亞細亞大陸の東部に突出する狹長の半島と許多の島嶼とより成る土地なり。四方の極点左の如し。

極東 圖們江口 東經百三十度五十八分

極西 黃海道小乳縣角オビキヤク(鴨綠江口)

東經百二十五度五分

極南 濟州島の毛瑟浦キヌセウ 北緯三十三度四十六分

極北 永遠近傍(圖們江右岸)

北緯四十三度二分

即ち、極東は内地の九州東端と、極西は八重山群島と、極南は九州の佐世保附

近と、極北は北海道の札幌と各経緯度を同じくするものなり。

### ◎ 四 隣

東は、日本海を控へて、本土と相臨み、南は、狹隘なる朝鮮海峡を隔て、對馬島と相對し、又、肥前の五島とも指呼の間に相望み、西南部は黄海に面して、遙かに支那本部の山東、江蘇二省に對し、西北部及び北境は長白山脈、鴨綠江及び圖們江が、乃ち自然的界ともなり、また是に據て大陸に接するものなり、即ち支那の滿洲たる、奉天、吉林の二省及び露領西伯利亞の沿海州に隣るものなり。

### ◎ 面 積

總面積は約一萬四千百十七方里にして、本土より稍小なるに過ぎず、即ち従前の我國總面積の約三分の一に當る。

而して、南北の最も廣き處は約二百五十里、東西の幅は同じく百五十八里ありて、其の最も狹少なる場所は四十五里に過ぎず。

### ◎ 海 岸

○總説——半島なるを以て三面海に臨むも、其の東海岸と西海岸とは著しき差異あり。是れ其の地體に於て山岳高原は概ね東海岸に偏倚し、爲めに地形東方に急斜して、西方は緩傾斜を成すを以てなり。

即ち、東海岸たる日本海沿岸は出入屈曲に乏しきのみならず、斷崖海に迫りて良港灣少なく、西南海岸たる朝鮮海峡及び黄海沿岸は最も出入に富み、數多の彎曲を成して、海上亦島嶼多し。然れども其の北部は出入屈曲次第に單純なるものなり。

○海峡——有名なるもの左の如し。

慶尙海海峡    全羅海峽    双子海峽

○位 置

○半島——主なるもの左の如し。

(東部) 大江半島

(南部) 左水營半島 興陽半島

(西部) 花源半島 海南半島 枋安半島 泰安半島 南陽半島

○岬角——著名なるもの左の如し。

(東海岸) 蒙白串 竹邊岬 各外串

(西海岸) 登山串 小乳縣角(長山串) 秋郎串

○海岸線——総延長線は一千七百四十裡に達す。就中最も長さを咸鏡道となし江原、慶尙、全羅、平安の四道之に次ぎ、忠清、京畿、黄海の三道を最も短しとなす。

東海岸は、咸鏡、江原の二道及び慶尙道の一部にして、半島地体と大陸地体との接續部たる東朝鮮海を唯一の大灣となし、其の灣頭を永興灣といひ、更に北に浸入したる處を松田灣、其の南を徳源灣といふ。灣内の元山港は東海岸第一

の良港にして、港口には麗島、新島、黄土島、牛島等散点し、其の外なる永興灣口には會沙島、鼠島、薪島、茅島あり、以北には内湖灣、前津灣あり、其の東方には馬養島あり、東北に三峰灣あり。更に其の東北には開港場たる城津灣あり、清津、端川、北青等の泊地と共に内地漁船の集泊所たり。而して露領との境には慶興灣あり、亦良港をなす。城津灣の北には、狗津灣、羅津灣あり、羅津灣は北關第一の良港なり。最北端を造山灣といひ、灣内は雄基灣を成す。東朝鮮海以南の江原道沿岸には著しき灣入なく、江陵の東方約四十餘里には鬱陵島あり、南には竹邊灣、迎日灣あり、南より出て東北を指すを冬外串といひ其の南に蔚山灣あり。

南海岸は、慶尙、全羅二道の南方にして、半島の南端たり、此の海岸線は短きにも拘らず、縦貫と横走との山脈により、縦横に切斷せらるゝを以て、岬角、海灣多く、一百有餘の島嶼ありて其の前面に横はり、海波を遮るを以て此の間に在る港灣は東洋稀有なりとす。

東端には、朝鮮第一の良港たる釜山港あり、其の前面に絶影島横はり、西に烏山港あり、港前に加徳港あり、其の西なる巨濟島の北面には鎮海灣あり、此の灣は全世界の艦隊をも碇泊せしめ得るに足る良港なりとす。灣の西南は固城半島をいひ、其の西には昆陽灣あり、其の南に南海島あり、島の西面に左水營半島あり、島と相抱きて蟾津灣を成す。左水營半島と興陽半島との間を順天灣とす、興陽半島の西岸に寶城灣あり、其の西に康津灣あり、多き島嶼の中、青山島、薪智島、古今島、莞島等は稍大なるものにて、遙かの南に濟州島あり。此の海岸の西角には右水營岬突出す。

西海岸は、平安、黃海、京畿、忠清及び全羅諸道の黃海に面する沿岸にして、北は支那の遼東半島より、南は黃海道より相灣入するを西朝鮮灣とす。北の鴨綠江口は遠く大船を容るゝを得て、龍巖浦の錨地あり。大同江口は大同灣を成し、江は船舶十數里を溯るを得べく、江口には鎮南浦、兼仁浦の開港場あり、附近には、薪島、大和島、身彌島、數高島、徳島、椒島等あり。黃海道半島の

中間に大同河口の灣入あれども津洲多くして河舟を通すべからず。黃海道の登山串と忠清道の泰安半島との間の大灣を京畿灣とす。此の灣内に江華灣あり、其の内に仁川港、濟物浦あり、京畿灣は京城灣とも云ひて、此の灣内には、更に海洲灣、南陽灣、牙山灣等あり、南陽灣の南端を南陽半島とす。南陽灣の南には泰安半島曲出し、其の南の安眠島と相待ちて淺水灣を成し、其の南なる錦江の排水口に庇仁灣あり。其の南岸に開港場たる群山浦あり、其の南端の右水營半島と北なる務安半島とにて木浦灣をなし、北岸には木浦港あり、港の前面には双子列島羅列し、列島と本島とにて双子海峡を成すものなり。

### ◎ 島 嶼

沿岸に散在する島嶼の多くは、何れも地味良好にして人民居住す。其の重なる名稱左の如し

(日本海方面) 鬱陵島(一に松島といふ)、竹島、馬養島

○ 世 置

(朝鮮海峽方面) 濟州島、所安島、莞島、甫吉島、古今島、新智島、牛島、馬島、雲龍島、助葯島、巨文島、所音島、南島、羅毛島、國島、金鰲列島、南海島、蛇梁島、閑山島、欲知島、巨濟島、加德島、絶影島、(黃海方面) 薪島、身彌島、大和島、敷高島、德島、椒島、白翁島、大青島、小青島、延平列島、喬桐島、江華島、永宗島、月尾島、巴島列島、大部島、小部島、水深島、豐島、臯子列島、安眠島、元山島、隔音群島、瘦瘠群島、雙子列島、朝鮮群島、西草群島、良伊良群島、珍島、黑山島

### ◎地勢

朝鮮半島は到る處、山岳蜿蜒し岳陵起伏し、平原甚だ稀にして、地貌は宛も暴風雨の時、海上に起伏する波濤の如し。是れ則ち大陸尨大の地相此處に來りて漸く半島的と爲りしなり。

而して、此半島は南部と北部とに於て大に地勢を異にし、各特殊の地相を有し

山脈の形、河流の方向相異なるを示せり、故に南北二部に分ち、京畿、江原、忠清、全羅、慶尙五道を南部即ち南朝鮮とし、咸鏡、平安、黃海三道を北部即ち北朝鮮とす。南朝鮮は、東部に於て地勢隆くして狭く、西部に於て低くして濶く、山脈南北に縦行するも、北朝鮮は山脈西南より東北に走りて横行し、水流は一様に分布せらるゝの差異あるのみならず、氣候も亦相異なるものあり尙差異の点を細叙すれば左の如し。

南朝鮮の東部及び南部には、北より南に走れる數條の山脈ありて南北に縦貫す此の縦貫山脈は南進するに隨ひ、漸く低く、終に岩石性の丘陵となり、又、地味礫礫なる平原となり、南端に於ける幾多の半島、島嶼となりて海中に没す。縦貫山脈の連亘する地方は、江原、慶尙及び全羅兩道にして、京畿、忠清二道には、縦貫山脈と二十度乃至三十度の角を爲して西南より東北に走れる幾條の山脈あり、而して南部の東岸海は縦貫山脈の構造する所に係り、其の山脈の東部は狹長なる條片形の地域を成せり、之を裏朝鮮と稱し、其の反面なる縦貫山



脈の西部を表朝鮮とす。表朝鮮は、地味豊沃にして稍廣き傾斜地を有し、京畿忠清、全羅の北部を包容す。慶尙道は最も山陵多く縦貫山脈の外、本道の南岸は全羅道の南岸より蜿蜒せる山脈に依りて構成せらるれども、比較的傾斜地に富めり。

北朝鮮の山脈は大抵東北より西南に向つて走り、地體は東南に向ひ、南部に於て南朝鮮に逢へり。故に北朝鮮に於ては東南を表面とし、西北を裏面と爲す。咸鏡、平安の兩道には共同の分水山脈ありて、西南より東北に走れり、之に隨ひて水流も亦西北と東南との反對に下る。而して東西なる咸鏡道の沿岸地方は、山脈の隆起する所海に近く、且其の海岸線長き故に、諸流直ちに海に朝す。之に反して西南面は長白山脈の國境外に連綿たるありて、水流は一旦西北に流下すれども此の山脈の麓に於て相合し、其の水流の東部なるものは豆滿江に入り、東北に流れて日本海に朝し、南部の水流は鴨綠江に注ぎ、西南に流下して朝鮮灣に入る。然れども平安道は南に黃海道を擁するを以て水流は西に走て

清川、大同の二大江と爲り、朝鮮灣に入るなり。

### ◎ 山 脈

韓國は、山岳重疊の國にして、其の主要なる山脈は、北部に長白山脈横はり、江南、狹嶽、妙香の各山脈、東北より西南に走れり。南部には蘆嶺、東嶺の二山脈南西より北東に向ひ、前者は大白聯脈に、後者は小白聯脈に交はれり。而して、小白聯脈は、北微東の方向を取りて、大白聯脈相合し、大白聯脈は北微西の方向に延長して、半島の東部に偏走す。又、中部には、滅惡、慈悲等の諸山脈ありて東西に走り、馬息、九月の諸山脈は斜行せり。今、各山脈及び其脈中の高山を列擧すれば左の如し。

長白山脈 白頭山

江山南脈 緩頂嶺、三綵嶺、牙得山、駕鷹嶺、衝天嶺

狹嶽山脈 天磨山、雪梅嶺、狹嶽嶺、忽移嶺

○ 位 置

妙香山脈 妙香山、狼林山、劔山、黃草嶺、赴戰嶺、厚致嶺、大元山、江陵山

滅惡山脈

慈悲山脈

馬息山脈

九月山脈

車嶺山脈

蘆嶺山脈

小白聯脈

(濟州島)

車嶺 車嶺

蘆嶺 蘆嶺

大關嶺、太白山、五臺山、金剛山

天德山、獅子山、知異山、德裕山、秋豊嶺、小白山

漢羅山(漢孛山)

而して、白頭山最も高く、二千七百米に達し、漢羅山の二千四十三米を之に次ぐものとす。其他有名なるは京畿道の碧蹄山、慶尙道の蔚山、咸鏡道、江原道

の境に聳ゆる嶺、摩天嶺等とす。白頭山と漢羅山は、共に火山質なりとす。咸鏡道の群巒叢生せる幽谷中に、陵洞桂洞地院洞の十七洞ありて有名なり。碧蹄嶺は、文祿年間征韓役の當時、小早川隆景が、明軍十萬の兵を屠殺せし所又、蔚山は加藤清正の籠城せしを以て共に著はる。

◎ 鑛 泉

著しき火山脈なきも、特に著はれたるもの左の如し。

南部の鷲岩山、金井、密陽、

北部の温水坪、臥龍山

◎ 河 流

地勢上、大河の所在を許さず、然れども日本海、朝鮮海峡、黄海の三斜面にし

て異れり。即ち、東面は逼迫するを以て短少なる水流多く、長大なる流域をなすものは圖們江の一あるのみ、之に反して西面の平野を流れ、黄海斜面に斜水するものは多く長大なる水域を有し、南面して海峡に排水するものは、また東面の如く水系長大なること能はず。

河の流勢は一般に急迅なり、是れ地勢傾斜の度甚しきを以ての故なり、而して此の河身は上流に於ては隘隆なるも、河口に至れば著しく濶大を爲し、多くは度濶なる峽灣をなす。而して、一般に上流に急迅なるも、下流は緩流となり、水量潤澤にして可航水路に頗る價值あるあり、またなきあり。

河流は總て天然の儘に放棄し、人工的設備を爲さず、且つ山岳に樹木少なきを以て降雨には水量激増し、氾濫の患害を興ふること多し、然れども水の減退し干涸することも速し。

河流の主なるものを列擧すれば左の如し

(日本海斜面) 圖們江(豆滿江)

(朝鮮海峡斜面) 洛東江、岳陽江(蟾江)

(黄海斜面)

榮山江、萬頃江、錦江、漢江、金川江、大同江、清川江、博川江、鴨綠江

此の中、鴨綠江、大同江、漢江、洛東江、圖們江の五流を朝鮮の五大江と稱し又、之に亞ぐ、清川江、錦江、榮山江、岳陽江の四流を加へて九大江ともいひ清川江、岳陽江を除きて七大江とも云ふ。

圖們江は、長白山脈中の白頭山に發し、北東に向ひて流れ、會寧附近より北走し、後ち南東に折れて慶興に出で以て日本海に注ぐ。全長九十里、慶興まで百噸の舟を通じ、小舟は尙上流に至ることを得るものとす。河口には、露領ボシエツド灣と朝鮮造山灣との界をなし水は淺からず、幅廣き所は七八町に亘る。支流に、小紅丹水、大紅丹水、西北川及び清國より來る海蘭河、渾春河等あり。洛東江には、源を大白山の南麓に發し、行く々々沿岸の地を潤し、琴湖江、加祚川、南江等の支流を合せ、南流或は東流して尙州の東を過ぎ、更に方向を轉じ

○位 圖

て海峡に向ひ、營江の東方に迂流し、金海の東方を過ぎて終に朝鮮海峡に注ぐものなり。全長七十里、密陽まで百噸の舟を通じ、小舟はよく四十三里の上流に達す。

錦江は一名を鎮江ともいふ。水源を忠清道の東境なる俗離山に發し、燕峽近傍に於て北より來れる東津江を合し、屈流して韓山の南方を流れ、舒川に至りて黄海に注ぐものなり。江域一帶の地は人口最も稠密にして朝鮮第一の富源地に數へられ、舟楫灌溉共に便あり。

漢江は、源を朝鮮第一の靈山と稱せらる、五臺山の南北両麓に發し、南流或は西流して忠州附近に於て俗離山より來る達川を合せ、北西に向ひ、楊根の南西を過ぎ、龍津に於て北より來る春川江を容れ、京城の南を過ぎ遂に黄海に注ぐものなり。全長七十餘里、河口より四十里の五流までは小舟を通ずるのみならず、其灌溉する所は實に江原、慶尙、京畿の三道に跨り、水利の便に於ては第一位に居るものとす。而して、京城の繁盛は此江に負ふ所莫大にして、貨物の

仁川港に至るものまた水路によるものとす。且つ終歲氷結することなきを以て鴨綠江、大同江の氷結するに比し、便利は更に大なり。

大同江は、水源を劔山に發し、平壤に至り數支流を合同して、勢漸く大となり西南一帶の平野を灌溉して漁隱洞附近に至り、河口開けて三となり、遂に黄海に注ぐものとす。全長七十餘里、十二月より翌年二月まで氷結すれども、河口は終歲氷結することなし。河口の鎮南浦は開港場として名高く、江は戰史に著名なるものとす。

鴨綠江は古來著名のものにして、朝鮮第一の大河なりとす。水源を白頭山の西麓に發し、濁流滾々として流ること百四十里、以て清國との境界をなし、下流に數多の洲嶼を抱きて朝鮮灣に注ぐ。河口より昌城に至る四十里間は舟楫の便あり。

◎平野

概ね山地なるを以て、平野と稱すべきもの少し。其中最も主要なるものを擧ぐれば左の如し。

咸鏡平野は、長さ約二十四里、幅約八里ありて、地味亦佳良なり。

洛東平野は、洛東江の沿岸にあり、廣大ならずと雖、其の濕潤宜しきを得るを以て、地味亦悪しからず。

錦江平野は一般に豊澤、農事能く開けたり。

漢江平野は稍鹵瘠なり。

大同江平野は、廣大なると共に、地味亦肥瘠相半ばす。

◎湖沼

特に著はれたるものなし。唯、白頭山頂の舊噴火口に水を湛えて、其の周圍約三里あるのみ。

◎潮汐

東海岸を西海岸とは、海岸線に著しき差異ある如く、又、潮水の干満にも著しき差異あり。即ち東海岸に於ては潮汐干満の差異甚だ尠少なるに反し、西海岸に於ては甚だ大なり。一例を示せば、東海岸の、僅かに二尺内外に過ぎずと雖も、西海岸にありては九尺より十二尺に達し、殊に漢江河口の如きは三十尺の高潮に達するものなり。されば、海底の淤泥川成れると共に、干潮時は、一里十里間唯々泥土を視て、潮水を見ざる所すらあるものなり。

◎氣候

大陸的にして總て酷悪なり。故に我が本土と同緯度に位する地に在ても、寒時は非常に寒く、暑時は非常に暑し。而して四季の氣候は本土の如く、其の季の長さ等しからずして、春秋二季の氣候は最も短く、夏冬二季の氣候は長し。即

○氣候

ち暑寒共に酷悪なる例證を擧ぐれば、酷暑の候には室内の洋蠟溶けて彎曲するに至り、嚴寒には麥酒、醬油、甚しきは鶏卵の如きに至るまで氷結し、容器を破裂せしむることあり。されば夏季は炎暑甚しくして熱度の高きに耐へず、冬季は寒風凜烈に吹きすさみ、北部の港灣は固より殆んど氷結し、圖們、鴨綠、大同等の諸江の如きは、四五ヶ月間堅氷を結び、人馬江上を往來し、爲めに樞の渡頭を設くるに至る。のみならず、一日中に於いても激度甚だしく、殊に夏季と冬季とは數層甚しくして、一晝夜間に於て温度に十度乃至二十度の差異を生ずるを常とす。故に、朝鮮の俚諺に三寒四溫と稱することあり。此の意義は、三日間嚴寒打續けば、四日間は稍寒氣の減する意義なり。

○氣温 一年平均氣温は、釜山地方に於て攝氏（以下之に同じ）十三度餘にして、漸次北方に遞減し、京仁の地方より、元山地方には十度餘、又開巖浦附近より城津附近には八度内外にして、北韓の陸に入れば五度乃至四度と爲る。之を本土に比較すれば、南岸は福井地方に、中部は信濃地方に比すべく、又北

韓の沿海地方は函館地方に、其の内陸高原は、恰も北海道内陸と相似たり。而して年中最暖なるは八月、最寒なるは二月にして、其の差南部は二十三度、中部は二十七度、北部は三十二度内外なり。本州にありては、中部の沿岸地方は、此の差概ね二十一二度、内陸は二十四五度、北海内陸は三十度弱なるに比すれば、寒暑の差稍大なるを見る。今各地に於ける從來觀測せる氣温の高低極を擧ぐれば左の如し。

	高極度	低極度
木 浦	三四、一	八、七
大 邱	三七、八	一一、三
釜 山	三三、六	一〇、三
仁 川	三四、六	一五、四
京 城	三五、六	一五、八
元 山	三八、二	二六、三

○氣 候

城津	三五、五	二一、四
平壤	三五、五	二五、五
龍巖浦	三三、六	二六、六

即ち、暖地は西岸及び南岸は三十四度内外、其の他にありては三十五度乃至三十八度に達す。斯の如き暑氣は本土にありては到る所に遭遇する所なるも、寒氣に於ては零下十五度に達する事あるは、美濃地方乃至福島、山形地方、同二十度以下に下るは北海の各地にして更に零下三十度下に下るは、北海内陸の十勝上川地方に間々起るのみ、故に寒氣に於ては、本土の各地に比し、稍甚しきを見るのみ。氣温晝夜の差も亦著しく、中部以南の沿岸は八度内外にして、中部の内陸は十三度餘、北部の内陸高原に於ては十七度に達する地方あり。

○雨量 本土の同緯度に比すれば甚だ寡し。而して其の配布は半島の東南岸に多く、西岸は之に次ぎて多く、北部は最も寡し。

○雨季 毎年六月中旬頃より七月中旬頃に終る。是れ亦南部と北部に於て異

り、南部に於ては夏秋の候、西南氣候風流行する間は強雨屢々至るも、北部に於ては長霾と稱し、八九月頃霖雨ありて温濕甚し。

○降雪 一般に寡し。然れども比較的多きは江原道にして、咸鏡、平安の兩道之に次ぎ、慶尙、全羅、忠清の三道は殆んど堆積するを見ず。

○海霧 最も多きは西海に面する地にして、四五月の頃にあり。此の季に於ては數日間迷濛咫尺を辨せず、航海者甚だ困難す、南海に面する地は之に次ぎて少く、東海に面する地は最も稀にして、且つ迷濛數日に亘ることなし。

### ◎天産

○動物 朝鮮は人口猶ほ稀薄にして動物の繁殖多く、且つ大陸の一端にして移住すること自由なるを以て、陸上動物に於ては種類多し。南部に於ては見ざるも、北部咸鏡、江原二道の山中には虎、豹、頸部に白斑ある朝鮮熊ありて棲息す。其の他本土に棲息するものと異らず。家畜に於ても、本土に比すれば種

類多し。豚犬非常に多く、驢騾亦殊に多し、鳥類は我が本土に棲むもの悉くありて、本土に稀なるは鶴、鵠、鶯、鷹、鴉、鴟、鶻、鶻、鶻、鶻等殊に多し。魚類も多くは本土沿海に異ならざるも、其の多きものは鯛、鱈、鮑、海鼠等にして殊に日本海には鯨多く、咸鏡道の沿海には明太魚多く、全羅道の沿海には大口魚を産す。

○植物 亞細亞の南部森林帯に屬するを以て樹木の發生は良好なり。其の植物系は温帯林に屬するもの多く、針葉樹にては赤松最も多く、黒松、樅、五葉松、落葉松、羅漢柏等之に次ぎ、潤葉樹にては檜、櫟、栗、樺、樟、松、シナノキ、イタヤ、其の他の楓屬、バクアラナシム胡桃これ等なり。然れども南半部と北半部とは異なる所ありて、南部は樹木に富めども、此の人口多き地は濫伐盛んに行はれ、喬樹は殆んど伐採して跡を留めず、且つ造林法を勉めざるを以て生殖せず、北部の深山幽谷には山毛櫸、樺等漸く多く、北邊に至れば朝鮮松、落葉森、白檜、楊、槭等の密林を成すあり。果樹には、棗、柿、桃、李、梨、

杏、梅、銀杏、柘榴等あり。農業植物は、米、麥、粟、豆類等を一般に産するも、南部と北部に於て異れり、即ち南部には米、麥、豆類、煙草、綿を産し、北部に於ては麥、粟、稗、蕎麥、豆類、人參等を産す、然れども米と麥とは咸鏡、平安、黄海の諸道中に於て全く産せざる地あり。但し茶と甘蔗とは何地にも産せざるものとす。

○鑛物 一般に土地鑛物の埋藏に富むと雖も、其の採掘拙劣なるを以て産額多からず。金鑛の最も多きは咸鏡、平安の二道にして、砂金の産は豊饒なるものあり、其他鐵鑛、銅鑛またあり。

### ◎沿 革

朝鮮なる國号の歴史上に見えしは支那の周代の箕子此の地に遁れ、國号を稱せしに生まれり。其の前に於ては一定の名稱なかりしなり。箕子の子孫は今ノ平壤の地なる王儉城に都し、其の版圖は今の滿洲奉天省の東部より、今の



朝鮮なる黃海道、江原道以北の地のみを有し、京畿道以南は馬韓、辰韓、十韓三國ありて、是れを三韓と號せり、後ち王建なる者起り三韓を統一して都を今の開城の地に奠め、國を高麗と号し新羅、百濟等の國号を稱するもあり、然るに今より凡そ五百年前現李王の祖先たる太宗李成柱が一統して王となるに及び復び朝鮮と号し、我が明治三十年十月十五日大韓帝國と稱し、同四十三年八月二十九日我が日本帝國に併合し、日本の一地方として三たび朝鮮と号す。

### ◎ 人 種

朝鮮人の種族に就ては、從來學者間に幾多の議論存す。或は蒙古種の支派と爲すものあり、或は西伯利亞種と同族と爲す者あり、或は印度種の緬甸を経て來住したる者と認むるありて、未だ何種に屬するや明かならず、此の半島地たるや三面海に瀕し、一面大陸に連なり、海陸交通の便を有する地にして、幾十年來諸方面より多種族移住せしを以て血脈の混合甚しく、到底單純なる一種族と

見るを得ず。

要するに、容貌、骨格は殆んど日本人に同じく、唯々毛鬚の少きを以て異なれりとするのみ、然れども、細かに觀察すれば、上流人士には、額廣く、鼻梁秀でたるもの多く、下等社會并に此方咸鏡、平安等の地方には鼻柱低く、額狭きもの多く、又、平安地方の人は、身体稍々大なるが如く、多少の差異点あり。之を要するに、韓人は、數派の民族の混合せしものに似たり。而して南方人は、性質黠猾にして軟弱怠惰なれども、北方人は慍悍にして頑迷なり。

### ◎ 族 制

族制に三等の階級あり。然れども去る明治二十七年の改革に之を解きしを以て表面是なきが如きも實際は古來の慣習未だ更まらず。三階級とは兩班、常漢、奴婢是なり。

兩班とは、閔、趙、金、李、崔、朴、鄭、安等の姓氏を有する貴族なり。此の

階級にある者は獨り文武の大官に昇ることを得る者にして國民の上位に居り、地方に多くの土地を所有し、悠々として徒食し、窮すれば資財を常漢に誅求し地租を納むる他には納税の義務なく、譜代の奴僕を有し、此の奴僕を任意に賣買するを得る等の特權を有せり。此の兩班は京城に居る者、京城人口の二十分の一あり、地方に於ては忠清、全羅の二道に最も多く、殆んど人口の半數を占め、尙他の各地に散在せり。今回我が國に併合せらるゝと共に、朝鮮貴族令の恩典に浴し、朝鮮華族に列せられたる者は、何れも皆此の階級に屬するものなり。

又、兩班の下に、中人と稱する階級間まりありたり。是れは表面的一階級に立つに非ずして、任ずる職務に依りて兩班に屬せり、此の中人階級に在る者は、醫學、通事、天文、地理、祭禮等の職務を存す。されば全階級中に於て最も智識ある者とす。乃ち、明治二十七年の改革以後は各部官吏、地方官等に採用せられし者尠からず。

常漢は、常民とも云ひたり。即ち普通平民にして、農、工、商業を營みて生活す。然れども兩班に對して絶体的に服従せざるべからず、自由權利は少しも有せず、極端なる壓迫を受けたる憐むべき民なりしなり。

奴婢は即ち男女奴隸なり、公賤、私賤の二種ありて、公賤は官の使役を受け、私賤は兩班、中人等に使役せらるゝ者にして、常漢よりは尙憐むべきものなりしなり。

然れども是等は何れも舊時の制にして、我國に合併せられたる現今は盡く此の族制撤せられ、何れも自由の國民となるを得たるものなり。

## ◎ 人 口

人口は從來精確の調査機關なかりしを以て其の信すべき數を知られざりしも、我が保護國となりし以來、最近の調査によれば、戶數二百八十五萬一千二百十五にして、人口は一千二百九十六萬四千七百七十七なりといふ。

○ 人 口

而して、十三道中、最も多きは慶尙北道の三十二萬八千九百四十七戸百五十三萬五百六十四人を第一とし、全羅北道、慶尙南道之に亞ぎ、咸鏡北道の十九萬一千五百四戸四十三萬五千百四十三人を最少とす。

密度は、東北部最も稀疎にして、南部最も密、西部は其の中間に在り。又、各道を以てすれば、京畿道及び三南地方は最も濃密にして、江原咸鏡の二道は最も稀疎なり。而して、平安道は海岸地方は密なるも、黄海道は西南部に多し。内地人にして在留する者は、明治三十六年末に調査のて二萬九千四百二十九人なりし者が現今に於ては十萬餘を數ふるに至れり。

又、在外朝鮮人は、清國に三萬、浦里其他の露領に一萬、米國布哇に二萬、計六萬内外なりといふ。

### ◎言 文

言語は、國內到る所同様なれども、調語に多少の訛あり。而して、朝鮮語は、

蒙古韃靼語と日本との中間語にして、其性質日本に酷似す。されば、朝鮮人の日本語に通ずるものは、言語、文章等純粹の日本人と區別し難きこと往々あり。文字文章は、中流以上の社會に在ては漢字、漢文を使用すれども、普通には諺文と稱するもの専ら行はる。諺文とは、毎音十一字、子音十四章の結合より成る百五十四音なり。

### ◎衣 食 住

衣服には、緩潤なる筒袖の上衣と膝下にて括約せる廣潤の袴を用ふ。其布地は概ね、粗織の綿布、麻布を以てし、稀には、紗、絹、綸子を用ふることあり。色合は白色或は青色多くして、小兒は紅、青、紫等を用ふ。而して、寒氣の凛烈なるに拘らず、厚く綿を入れたるものを用ゐざるは、平常温室内に起臥するが故ならん。上流者にあらざれば、革沓を穿たず、冠は階級によりて其の趣を

異にし、男女一般に之を著用し、冠せ婚とは同期に行はるゝものなり。食物は、米、麥を主とし、魚、鳥、野菜、獸肉等を副食物として用ふること我國に似たり。只、我國に比して肉類を多く食す。殊に、普通の人民は、犬肉を食ふもの甚し。飲料用には、米、麥より製せる酒類及び茶、密水を用ふ。家屋は、概ね矮少して、層樓なき藁葺なり。故に、官廨若しくは、富貴の家にあらざれば瓦を用ふることなく、通常の家屋は三室より成り、一を居室と座敷とに充て、一を物置とし、一を籠のある所とす。殊に奇なるは、厠爐にして、其築造の法は、床下に石を疊みて細き路を縦横に設け、室を温むるに便ならしむ。而して、宮殿、寺院の建築には、頗る廣大なるものあれども其構造は粗雑なるを免れざるが如し。

### ◎ 宗 教

往昔佛教大に全國に蔓延せられしも、今や勢力全く地に墜ち、京城の如きは、

僧侶の宮中に出入するを禁せられし程にして、管各道に存在する有名古刹に數百の僧侶群居して、何等のなすことなく、徒らに、日を送るのみ、現今、最も勢力を有するは、一種の鬼神教なれども、普通稱する所によれば、多數の韓人は儒道を信奉し、孔孟の教を以て、人倫道德の基礎となし冠婚葬時の儀式の如きも、概ね、儒式といふものを用ふ。

基督教は、近來信徒漸く増加し、新舊兩派を合せば八萬五千人に近く、其五萬六千人はカトリック教徒なりといふ。

概言せば韓國人は宗教心甚だ乏しき國民なりといふを得べし。

### ◎ 教 育

教育は我が國の保護前と保護後に依りて異にせり。

保護前に於けるものは昔時我が寺子屋風の教育にして其の教育場を書房又は單に書と云ひ、課業は習字、讀書を修む、然れども此の讀書なるものは讀まして

後、意義を會得せしむるに非ず、唯暗誦的に文字を教ふるのみに過ぎず。其の書は千字文、童蒙先習、朱熹編纂の小學等の類に始まり、進んで四書、五經又は支那の歴史類を暗誦せしむ。然れば則ち儒教主義の教育にして、外見上儒教は朝鮮人の理想たるが如くなれども、漸を追ひて意義を知るを勉むるに非ず、適義を考究して人道を實踐躬行するに非ず、只官吏に登用せらるゝ爲のなる科擧及第の豫備にとて習讀する而已なり。而して書房は八道に亘りて三萬内外ありて、村夫子之れが教授を爲し、一堂に二十人乃至三十人の子弟を集めて養成せしなり。中流以下の子弟に於ては此の如くなりしかども、上流者のみは今の家庭教師を家に聘するが如く、家庭に於て子弟に教授せしめしものなり。

日本の保護を受くる以前に於ても諸外國人の在留者（宗教家）の如きは、朝鮮人が外國語を習得し易きを認め、競ふて重なる都會に語學校を開き、其の授業料を徴せざるのみならず、書籍文具等を給し、懇切に教授する等頗る多く、露人の如きは朝鮮人懐柔撫育の手段として其の生徒を優待し、是等を以て新式教

### 育の途を啓けり。

保護後に於ては日を退ひて新式教育に改まれり。彼の科擧及第豫備の儒書暗誦も明治二十七年、科擧の制を廢せしより、上流中流間にのみ外見的の形式に行はるゝに過ぎざる事と爲り、常漢以下の子弟には、殆んど學ぶ者無きに至れり而して新式教育に於ては、彼の政府始めて日英佛の語學校を設立し、先王の三十五年に小學校令を制定し、公立小學校を各府郡に設けたり。然れども費用支出の途無かりしを以て、僅の設立を爲せしに過ぎず。然るに保護の今日にては京城に官立高等小學校一、尋常小學校四の設立ありて地方に公立小學校五十あるに至れり。高級なる學校は京城に於て、彼の政府の建設せし分は貴族子弟の教育所たる修學院、漢城師範學校、外國語學校、商工學校、礦務學校、醫學校、武官學校にして、彼の政府の官立學校として、多くは日本人其の職員と爲り居たり。外國語學校は日、露、英、佛、獨、漢等にて、最も盛大を爲せり。京城の他に於ては仁川に官立外國語學校、釜山に公立開成學校ありて、後には統監

府所轄の官立學校と爲り、水原に農學校を増設したり。又専ら日本人の設立に係る學校は京畿道に安城學校、忠清道に韓南學堂、全羅道に三南學堂、光州實業學校、木浦日語學校、慶尙道に釜山學院、密陽開昌學校、大邱達成學校、中興日新學校、平安道に平壤日語學校、咸鏡道に城津學堂等ありて其他にも日語學校は漸次諸處に設立せらる。

### ◎ 政 治

従前は、君主獨裁の李朝國體なりしが、其後明治三十八年十一月十七日、我國と日韓と協約を締結し、以て其の外交權を我が政府に收むると同時に、統監府を京城に置き、此國の内閣を後見監督し全然我が保護政治となせしが、尋で、四十二年七月の新協約により、更に司法權を我政府に委託して、我が裁判所の下に諸種の裁判を爲し、又、軍部を廢して軍事權を我が國に委ね、其の軍隊を解散する等、數次の改革を経て、遂に四十三年八月二十九日此國を我が日本に

併合せらるゝに至り、從來の獨立大韓帝國は、全く日本の一地方となり、一殖民地となるものなり。李朝五百年の社稷は時勢已むを得ずして日本の一部に併合せられ、朝鮮の古昔を通じたる革命七朝の興亡、三千年の歴史は我が日本帝國の版圖の内に傳はるゝこととなりぬ。

今、併合當時に下されたる、兩國皇帝陛下の詔書を左に掲ぐべし。

#### 韓國併合詔書

朕東洋の平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國ガ禍亂ノ淵源タルニ願ミ曩ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ帝國ノ保護ノ下ニ置キ以テ禍源ヲ杜絶シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ノ政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルベキモノアリト雖韓國ノ現制ハ尙未ダ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラズ疑懼ノ念毎ニ國內ニ充溢シ民其ノ堵ニ安ゼズ公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ増進セムガ爲メニハ革新ヲ現制ニ加フルノ避ク可ラザルコト瞭然タル

ニ至レリ

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ舉テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應ズルノ己ムヲ得ザルモノアルヲ念ヒ慈ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ

韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合後ト雖相當ノ優遇ヲ受クベク民衆ハ直接朕ガ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ増進スベク産業及貿易ハ治平ノ下ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルベシ而シテ東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈々其ノ基礎ヲ鞏固ニスベキハ朕ノ信ジテ疑ハザル所ナリ

朕ハ特ニ朝鮮總督ヲ置キ之ヲシテ朕ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ總轄セシム百官有司克ク朕ノ意ヲ體シテ事ニ從ヒ施設ノ緩急其ノ宜キヲ得以テ衆庶ヲシテ永ク治平ノ慶ニ賴ラシムルコトヲ期セヨ

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

各大臣 副署

韓帝ノ詔勅

朕ハ東洋ノ平和ヲ鞏固トナス爲韓日兩國ノ親密ナル關係ハ彼我相合シテ一家ヲ作成シ相互萬世ノ幸福ヲ計ル所以ナルヲ念ヒ此ニ韓國統治ヲ舉ゲ之ヲ朕ガ極メテ信賴スル大日本皇帝陛下ニ讓渡ノ事ヲ決定ス依テ必要ナル條章ヲ規定シ將來我皇室ノ永久ナル安寧ト生民ノ福利トヲ保障スル爲内閣總理大臣李完用ヲ全權委員ニ任命シ大日本帝國統監寺内正毅ト會同商議協定セシメタリ諸臣又朕ガ意ノ格段ナルヲ體シテ奉公セヨ

隆熙四年八月二十二日

御名 御璽

完全ナル日末ノ版圖ニ歸スルト同時ニ韓國ヲ朝鮮ト改稱シ、從來ノ統監府ヲ總督府ニ改メ、以テ諸般ノ政治ヲ司ルコト臺灣ノ例ニ同ジ。

即ち、朝鮮總督は、天皇陛下委任の大權範圍内に於て陸海軍を統轄し、一切の政務を統轄するものにして、現役陸軍大將を以て之に任せられ、其の初世總督

○政 治

は統監兼陸軍大臣寺内正毅之に當ることとなりぬ。而して、中央政治は總督府是が首腦にして、官房の外、總務部（人事局、外事局、會計局）、内務部（地方局、學務局）、度支部（司稅局、司計局）、農商工部（殖産局、商工局）、及び司法部の各部局に分れ、各其の主管事務を分掌し、政務總監之を統理し、以て總督に隸屬するものにして、各部局には長官局長あり、全く我が本國政府の管外に立ち、總督獨立政治を行ひ、立憲政體外なること、臺灣と異らず。

尙、是等の中央首腦政府に加ふるに、取調局、鐵道局、通信局、臨時土地調査局、稅關、專賣局、印刷局、營林廠、醫院、平壤鑛業所、勸業模範場、工業傳習所、土木會議等の諸機關之を圍繞して、總督に直屬し、各其の長官を載き、以て完全の政治を布くものとす。

地方政治は、從來全國を十三道に分ち、更に之を九府三百四十一郡に區分し、各道には觀察使（監司）、府尹、郡守を置き、濟州島に牧使、各開港場に我部官

吏、監理あり、府郡の下には、我内地市町村に該當すべき面、洞の里ありて、古來人民間の自治制度能く發達し、面に面長、洞に尊位、助役、里に所任ありたるものなりしが、是亦我に併合後は、是が官制改正となり、従前の十三道に舊來の如く、是に各道長官、參典官、事務官等を置き、其の下に府郡を置き、府尹、郡守、參事等あり、府郡の下には面を置かれ、面には面長あること、内地町村長の如し。

而して、是等の官吏は、主として内地人之に當り、朝鮮人にして相當資格ある者亦之に任用せられ、以て圓滿なる政治行はる。

又、朝鮮人の輿論を聞き、以て總督政治の諮問機關たらしめんが爲めに、總督府に中樞院ありて、議長、副議長、顧問、贊議、副贊議等あり。議長は政務總監之を兼任し、其他は何れも朝鮮人にして、名望ある上流の士を之に任せらるゝものとす。



### ◎ 司法

我國に併合せらるゝと共に、内地と等しく三審制度の裁判所を設置せられ、最下級の區裁判所は各道樞要の地に設けらる。地方裁判所以上の所在地左の如し

高等法院

京城府にあり、内地の大審院に同じ。

控訴院

京城 大邱 平壤

地方裁判所

京城 公州 咸興 海州 大邱 釜山 平壤  
光州(計八箇所)

又、監獄は、地方裁判所所在地に設けられ、別に要地十三ヶに分監を置く。

### ◎ 軍制

往時獨立國時代にあつては、上に元帥府あり、彼の皇帝乃ち大元帥として軍機を總攬し、陸海軍を統率し、以て全國より兵丁を徵募したるものなりしが、第

二回日韓協約と共に、其の軍事權を我國に收め、以て今日の併合に至りしものなり。

即ち、朝鮮駐劄軍司令部ありて、國防軍事の全權を司り、其の駐劄軍は内地各師團(近衛を除く)より一箇師團宛交代分遣せられ、別に混成守備一箇旅團ありて是に任ずるものとす。其の駐劄軍司令官は陸軍大將なり。然りと雖、遠からず臺灣の例に倣ひ、駐劄軍司令部を撤去して總督の直轄となし、守備一箇師團の建制を見るに至るべし。

### ◎ 産業

#### (一) 農業

朝鮮の産業は農業を主とす。農業は實に朝鮮の生命にして、國民として農耕を事とせざる者は僅に漁民と商工輩との一小部分に過ぎず。然りと雖、朝鮮の地域は農耕地としては極めて狹隘なり、是れ到る所丘陵山岳多くして傾斜地乏し

きを以てなり。されど、土質沃壤なるが故に頗る農耕に適す。殊に南朝鮮地方は、概して膏腴の地多く、瘠土は稀なり。故に數十年來肥料を施さざるも天然の窒素、磷酸加里等の養分を多量に含有するを以て作物は能く成長す。此の如き地なるにも拘らず、同面積の耕地にして我が日本の收穫に比すれば少きは原因する所あり。則ち他なし、農民多くは懶惰にして農事に精勤せず、進んで耕作法を改良する者無き故なり。

耕作物の總面積は百八十万町歩とも云ひ、又、二百餘萬町歩ともいひ、種々の説あれども約二百萬町歩を以て正に近しとす。斯くの如く詳かならざる故は、地方官吏の私を營まんとして、實際よりは減せし數を上司に報告せるを以てなり。而して、稻田と畑地との割合は、三分の一を稻田とし、殘餘三分の二を畑地とす。

農作物の種類には、米、大麥、小麥、黍、稗、蜀黍、粟、大豆、小豆、棉花、烟草、藍、蓼藍、大麻、楮、漆、桑、其他蔬菜、果樹、人蔘等あり。

稻作は各道一般に行はるれども、特に三南地方即ち全羅、慶尙、忠清三道には水田多くして、全國産米の殆んど半を産出す。されども此れ以外には稀にして北部に至れば米を産せざる地方あり。此の地は南方の産出米を入る。三南地方は斯く米の産多き地なるを以て、他の農産物は産せざること無し。北部のみは土地礪確にして粟、稗、耳米の類を産するに過ぎず。

(米の産額) 最近の總計に據れば、總ての農産物の輸出額は七百五十餘萬圓(日本貨に換算したるもの)にして、全輸出額の入割を占め、其の中にて米の輸出額は四百二十萬圓内外なり。而して、全半島中最も産額の多きは全羅、慶尙の兩道にして、忠清、黄海、京畿の三道之に次ぎ、平安、江原、咸鏡の三道は最も少し。

(麥) 何地を通じても栽培す。作地は主に畑地にて、水田に二毛作するは稀なり。而して其の主なる用途は、大麥は食用及び飴に製造し、小麥は粉を爲し各種の用途に充つるの外、酒類醸造用の麴に製す。

(粟) 作法は日本の作法に劣るは言ふを俟たず。されど全國を通じて多少之れを作る。用途は食用にのみ供するものなり。

(蜀黍) 平安道、黃海道に於て盛んに栽培す。食用の他は燒酎に製するものなり。

(大豆) 産額最も多し。最も多額に産する地は、黃海、平安、慶尙、江原、咸鏡の諸道とす。此の他小豆も總て豆類の栽培は日本の行ふ所と著しく異なること無し。肥料は少許の灰を用ゐるのみなれども、生育は一般に良好なり。大豆の用途は米と共に食用に供し、又豆腐、味噌、醬油に製し、豆芽菜として副食物に用ゆ。而して多く日本に輸出す。

(小豆) 大豆に次ぎて産額多し。黃海、平安二道に於て主として産す。用途は米に混じて食用に供するなり。

(綠豆) 多少栽培す。用途は主に豆芽菜として用ゐるなり。

(蔬菜) 白菜、菜菔、水蘗等を多く産す。

(棉花) 各地栽培に適せり。産地は南部より平安道に亘り、全羅、慶尙、忠清、京畿、黃海、平安諸道を其地とす。就中全羅道は最適地として産額最も多し而して其の種類は、青幹、赤幹、大朝鮮、小朝鮮等なるが、其の品質は日本棉花に比しては劣れども、纖維細長にして光澤あり、紡績糸の原料として適當なりとす。實棉の收額は一反歩に付十貫目以上三十貫目以内に在り、而して此の繰上げは、百斤に付きて上等は三十斤、並等は二十五斤を得。

(麻苧) 各地に産す。野生のもの多し。咸鏡道の北關地方は産額殊に多く、又全羅、忠清二道も多く産し、錦江流域には數十里に亘る産地あり、而して、其の麻谷里は有名なる産地なり。

(楮) 畑に栽培せず山野圃邊に生せしものを採收す紙の漉き方は概して粗悪なり  
(桑) 到る處に野生のものあり。葉は蠶糸に適すれども近來清國より魯桑を輸入して栽培す。然れども、養蠶の業幼稚なるを以て、桑の栽培随つて僅少なれども、平壤及び大邱附近には良好の桑園あり。

(煙草) 朝鮮人の嗜好品なるが故に多く栽培す。其の重要なる産地は忠清道堤川、木川、山定、青陽、天安、溫陽、全義の諸郡、全羅道全州府其の他高山珍山、任實、南京、求禮、長水、茂朱、錦山、龍潭、鎮安、平安道成川、陽德、黃海道谷山各郡なり。

(藥用人蔘) 此の栽培法は、朝鮮の農業中に於て最も發達せしものにて苗圃の構造、播種覆ひの施し方、播種後の手入、苗の移植、本圃の仕立方、收納に至るまで周到綿密にして、其の製造法等に於ても、日本内地の者未だ其の真髓を知得せず。而して製し上げたるものは紅蔘と白蔘との二種に分る。最も盛んに紅蔘を栽培する名地は開城府を中心にして其の附近なり。即ち長湍、黒川、豊徳、鬼山、新洞、平山、端興、鳳山、金川の九郡にして、白蔘の産地は江原慶尙、平安、全羅、忠清、京畿の諸道なり。就中江原、慶尙二道は最も多く産す。而して、人蔘は朝鮮人の藥用に供するものなれども、主要なる需用地は清國なり。此の人蔘は米國、滿洲、日本に於ても産すれども、以上述ぶるが如く

朝鮮産は優良にして價格最も高く、一ヶ年の産額は十萬斤の上に出で、其の額二百萬圓を下らず。

白蔘は個人の製造に係れども、紅蔘は總督府の官營にして價格も最も高く、白蔘は價格低し。

(果樹) 栽培は放任的なり、然れども地味適するを以て佳美なり。其の種類は桃、棗、梨、葡萄、櫻桃、柿、栗等なりとす。

## (二) 牧畜業

牧畜は、牛馬豚を主として飼養す、山羊、驢馬、家禽等は何れも自家用として飼育するのみ。牛は優れて骨格肥大なり。生牛は輸出品として一ヶ年の輸出三萬頭を下らざるべし。牛皮、牛肉等も盛んに輸出せらる。牧牛地に咸鏡北道地方及び永興、高原、定平の諸郡、平安道の陽德邊、又慶尙道にも産す。牛骨の産出額は少額にして牛皮に比すれば少なし。

豚は牛に次ぎて多く飼養せらる。戸々食料に供する他は浦鹽地方へ輸出せらる